株式会社アシックス



ストップ&ジャンプ自在。

グリップ力抜群のニューソール装備、新製品〈スカイハンドスペシャル〉

アシックスタイガーの新製品 スカイハンドスペシャル はストップ&ジャンプが自在にできるハンドボール専用シューズです。
写真の底意匠にご注目ください。複雑なトレッド(溝)をソール全面に刻み込んでいます。これは、ハンドボール特有の、多角的な動きに対応するためで、とくに拇指球下のリング状意匠はグリップ力を飛躍的に高めます。このため、選手は思うようにストップでき、また思うようにジャンプすることができます。
●甲被はステア表革と銀付ベロアの2タイプ。●独創のカップソールは甲被を食わえ込む設計で、足ブレを防ぎます。●大型ヒールカウンターはカカトをガッチリ保持し、選手の動作能力を高めます。
●軽さ、クッション性も卓越。
ストップ&ジャンプの スカイハンドスペシャル で栄光をつかんでください。

asics TIGER®
Handball Shoes
スカイハンド スペシャル

/NEW

スカイハンド スペシャル (THH705)
●甲被はステア表革(ホワイト)、銀付ベロア(レッド、ロイヤルブルー)、裏地はナイロン。●アウターソールはラバーのカップソール。●ロイヤルブルー×ホワイト、ホワイト×レッド、レッド×ホワイト。●サイズ 22.5〜28.0cm
標準小売価格 ¥12,000

アジア大会

決勝で中国に苦杯 無念！金メダルを逸す

第6回アジア大会のハンドボール競技は、11月23日から30日まで、デリー大学グラウンドで開かれた。金メダルを狙う日本は、馴れない気候や環境を克服して、決勝まで堂々と駒を進めたが、これまで不敗だった中国の意外な粘りに屈し、無念にも金メダルを逸し、銀にとどまった。

予選Aグループ〈11月23日〉

日本 35（17－12、18－7）19 アラブ首長国連邦

【日本】	得
矢内	0
志賀	2
高木	2
西山	8
斉藤	3
山本	6
田口	0
蒲生	4
生駒	3
池ノ上	6
猪野	1
大畑	0

得	【アラブ首長国連邦】
	KARE ALI HASHEM
	ABDULLASAEED ABUDULSALAM
5	GHARIB ABDUL SALAM
9	AL THANI MOHAMMED
1	AL NAQUEEB ABDUL NASSAR
3	GHANIM KHALIFA
	OBAID FAUZAI
	OTHMAN NASSIR
	AL HAUSANI RADWAN
1	AL ESTAD RASHID
	ABDULLAH GHULLOM
	AL MEFASAL KHAMEIS

▼試合開始直後、両チームともリズムをつかめず、ミスが続いた。2分過ぎに日本・池ノ上がステップシュートで先取点を挙げた。しかしアラブ首長国連邦(U・A・E)もアル・タニ・モハメッドなどが3連続得点してリードした。8分には生駒が一対一のフェイントから得点して4－4の同点とした。その後中盤戦は、日本が着々と得点を重ねる一方、U・A・Eは12分間近く得点ができず、25分には日本が15－6と一方的にリードした。結局前半は日本が18－7の大差で終えた。

後半に入っても日本の攻撃は止まず、着々と加点していくのに対し、U・A・Eは4番モハメッドがロングシュートで対応するが、点差は徐々に広がっていった。

後半27分を過ぎると、U・A・Eはあせってロングシュートをするが、日本のGKに阻まれ、逆に失点を増やすだけであった。日本・高木が速攻から35点目を得点して試合は終了した。

日本はU・A・Eと初めて対戦したせいか、立ち上がりもたついたものの、中盤以降は力を発揮して大勝した。（平岡）

●第2試合〈11月25日〉

日本 26（14－8、12－4）12 インド

【日本】	得
矢内	
津川	
志賀	1
西山	6
斉藤	5
山本	6
田口	
蒲生	2
生駒	5
池ノ上	
猪野	1
井藤	

得	【インド】
	SHARMA INDRADEO
1	MADURANDGAM SWAVENUGORAL
1	SANDHU GURMEET SINGH
7	SINGH SUKHBINDER
1	SHARMA KAPILDEV
1	DHILLON AJINDER PALSING
	TALAFANI RAJAGOFAL
1	SINGH BALWINDER
	MOHD. ABDEUL AZIZ
	RANA BALIJINDER SINGH
	HAIDU RAJKUMAR
	NAIDU ROOPKUMAR

▼立ち上がり日本は、斉藤が鮮やかなサイドシュートを決めて、主導権を握ったかに見えたが、一方インドもポイントゲッター8番のシン・スクビンダーがすかさず豪快にロングシュートを決めて1対1としたあと6分30秒にも、再びシンがロングを決めて、この時点でインドは2－3とした。

しかし、地元インドの攻撃もここまでであり、これに対し日本は、キャプテン山本らが着実に加点し、前半は日本が12－4と大き

くリードしてハーフタイムとなった。

後半に入るとインドはエースの8番にボールを集める戦法を立てて反撃に移った。又、防禦面でもインドGK・インドラ・デオを中心とした好守に阻まれ、前半好調に飛ばした後半の日本は18分間に5点しかとれず、この間全く攻撃のリズムを失っていた。しかし20分過ぎに西山がロングシュートを決めたあとは、本来の攻撃リズムを恢復し生駒の3連続得点を含む9連続ゴールをして点差を一方的に広げた。

（後記）結果は大差となったが、第12回アジア選手権大会（南京）で初めて姿を見せた時のインドチームと比べると、数段の進歩を見せていた。今回のアジア大会前に、インドは東独に遠征して練習を重ねたとのことであったが、近いうちに日本を苦しめるチームの一つになると感じられた。（平岡）



インドは長足の進歩をみせていた

第3試合＜11月26日＞

日　本　25（12－11、13－9）20　クウェート

【日本】	得
大畑	
津川	
志賀	1
西山	1
斉藤	4
山本	2
松井	2
田口	
蒲生	9
生駒	5
池ノ上	1
井藤	

得	【クウェート】
	AL-KHAMES KHAMES
	AL-HOUTT TAREO
	KHALED SHAHZADAH
	NAJEM SALEH
1	HASSAN ADNAN
	AL-BDAIH BDAIH
5	AL-OASSAR JASSEM
2	AL-KHAMES MAJED
3	AL-ANJARI ABDUL-AZIZ
6	SHAHZADAII ESMAEL
	AL-QASSAR MOHAMED
3	AL-GHARABALLY HASHEM

▼日本・クウェートともに、インドとU・A・Eをくだして決勝トーナメント進出を決めての対戦となった。立ち上がり両チームとも緊張したせいか、ミスが続いた。3分50秒日本のエース蒲生がPTを決め先取点を挙げた。そのあとも相手のミスをついて蒲生が速攻から2連続得点して3－0とリードした。

しかしクウェートもカットインプレーで日本の防禦陣の反則を誘いPTを得て9分過ぎには4－3とした。その後生駒のロングシュートなどで日本は9－6とリードした。ここで更に点差を広げるとクウェートの緊張の糸が切れ、楽勝パターンになるところだが、クウェートも頑張りを見せ、2点連取して9－8と1点差に迫いついた。その後28分までシーソーゲームが続いたが、日本が3連続得点して、4点差で前半を終えた。

後半の立ち上がり、日本がミスを重ね、そのミスを巧みについたクウェートは5得点して15－14と1点差に再び追いついた。しかし日本は、ここで頑張り俊敏な松井がサイドから2連取して再び日本は3点差とした。

後半この後20分過ぎまで一進一退の攻防が続いたが、終盤日本はクウェートを8分間0点におさえる健闘で試合を決めた。

●準決勝＜11月28日＞

Aグループ1位　Bグループ2位

日　本　21（10－8、11－12）20　韓　国

▼試合開始33秒に日本の池ノ上が豪快なロングシュートを決め、先行した。しかし1分過ぎには韓国11番がローリングからロングシュートを決め、すぐに同点とした。

その後韓国の14番と3番が決めて3－2とリードしたが、日本は蒲生がシュートモーションからポスト志賀に鮮やかなパス、これを確実に決めて3－3の同点とした。

このように前半の中盤の8分近く1点差のシーソーの攻防が続いたが、その後日本は18分過ぎ、3連続得点して8－6とした。しかしこの頃から日本選手の動きが鈍くなり、韓国の11番を中心とした攻撃に押されて得点を許し、前半を11－12で折り返した。

後半に入り日本は、韓国11番の動きを封じるとともに、ロングシューター13番のシュートをも阻止

【日本】	得
大畑	
津川	
志賀	1
西山	2
斉藤	1
山本	7
長野	1
松井	
蒲生	6
生駒	1
池ノ上	2
井藤	

得	【韓国】
	LIN KYUHA
	LIN YOUNGCHUL
6	KANG TAEKOO
2	KANG DUKSOO
1	LEE SANGHYO
1	LEE SANGWOO
	KIM YOUNGNAM
	OH SAEHOON
1	KANG JAEWON
2	CHOI TAISUB
7	PARK BYUGHONG
	LEE INCHULL



韓国を辛くも1点差で破って決勝へ

する作戦が功を奏して15分間韓国を2得点におさえる好ディフェンスで15－14と逆転した。その後韓国も必死に応戦するが日本はエース蒲生がロングシュートを豪快に決めるなどして、リードを守った。勝負の峠どころの20分過ぎに韓国は3番のサイドシュートと、速攻から2連続得点して同点としたが、勝利への執着心に燃える日本は西山の速攻と蒲生のロングシュートが決り、再び2点差とした。韓国は試合終了直前に、速攻で1点を返したが時すでに遅く、日本は1点差でかろうじて逃げ切った。



これまで不敗だった中国に敗れたのは無念だった

●決勝＜11月30日＞

中国 24（11－8、13－11）19 日本

▼決勝戦にふさわしく、前半開始直後から1点差を争う好ゲームとなった。中国は4番を中心にロングシュートを決め一時は6－3とリードしたが、日本も山本、蒲生の活躍で5－6と1点差にした。

その後1点を争うシーソーゲームが続いたが、17分には山本が速攻を決め、同点に追いついた。しかし中国は日本のミスをつき得点するとともに、4番キンのロングシュートがよく決まり、2点のリードを守った。これに対し日本も西山が連続得点するなどして頑張りを見せたが前半は2点差を縮めることが出来ず日本の11－13で終った。

後半開始直後キャプテン山本が足を生かした得意の単独速攻を決め1点差に追いつき逆転の態勢が整った。しかし中国はその後の15分間を1失点に押さえる好ディフェンスをする一方、7番オーユーなどを中心にした見事なオフェンスで6連続得点して点差を広げた。

金メダルを狙う日本は残り15分に勝利をかけ、すさまじい反攻を開始した。17分には池ノ上が、19分には松井が速攻を決めるとともに、21分には生駒がフェイントからミドルシュートを決め、2点差まで追いついた。この勝負どころで中国は日本DFを攻めあぐみ、ただ単にボールを回す消極的な攻撃であったが、幸運にも2分間ボールをキープしたのちのシュートのリバウンドから得点を得て生き返った。

このラッキーな得点が勝利の女神を呼ぶ結果になり、この後日本が最後の努力をして得点を重ねたのに対し、中国も着実に攻撃を得点に結びつけ一進一退でついに5点差で、日本は涙を飲んだ。

【日本】	得
大畑	
津川	
志賀	
西山	5
斉藤	
山本	7
長野	
松井	2
蒲生	1
生駒	2
池ノ上	2
井藤	

得	【中国】
	XIE JIYONG
	WEI HEPING
7	WU MIGQUN
	LI YINGCAI
2	GAO ZHONGXIN
6	WANG XIONG
	WANG YAOITINO
2	CAI JIANGEO
3	HU WEIDONG
	SUN TIE
1	SONG ANWEN
3	JIN BAILIAN

『ハンドボール』57年12月号（第214号）目次

【表紙写真】第9回アジア大会決勝・日本対中国の熱戦

アジア大会参加選手の声

敗戦を素直に認め 次の目標へチャレンジする

キャプテン　山本　伸二

ハンドボール競技において、今回の第19回アジア競技大会が初参加であるという事、また、これまでの大会を通じ、日本選手団としては、463名という、かつてない大デレゲーションとなった事等、我々選手団はもちろん、各関係の方々の今大会にかける意気ごみと期待は大変なことだったろうと思います。この点キャプテンとして参加出来たことは、本当に幸運であったと考え感謝せずにはいられません。



アジア大会で勢ぞろいの日本チーム

ところで選手団は、11月16日に日本を出発し、11月19日が開会式そして11月23日からハンドボールの予選リーグが始まりました。

出発前、体協関係およびハンドボール関係者からチームボールゲームの中では、唯一の金メダル候補を確実視されていただけに、われわれもその期待に答えるべく入村後ゲーム前まで、各自が自覚をもって調整に努めました。そしてこの金へのエスカレートは実際に試合を重ねていく度にチーム間にだんだん高まって行く様子がありありと見え心強く感じました。

このように、チーム目的達成の精神的な高揚の過程で、第一の関門の強敵である韓国との準決勝戦では、一点を争う大接戦を演じながらもこれに見事競り勝ち、最高のムードで金メダル争奪戦にしのぎをけづることになりました。

決勝戦は戦前の予想通り、金メダルを争う相手としては最良の中国チームでしたが、中国には、ここ数年、一度も負けていないだけに、この大会では接戦を演じても、絶対負ける相手ではないという強い確信のもとにゲームに臨みましたが、結果は5点差という思わぬ点差で金メダルを掌中から逃がしてしまいました。

戦いすんで数日過ぎた今でも、大切なゲームを落とした口惜さとキャプテンとして敗戦の責任を強く感じていますが、負け惜しみではありませんが、実力で敗れたとはどうしても思えません。理由はただ一つ、負け試合のパターンにつきものである、そのゲームにかける意気ごみと、プレー一つ一つの気力、チーム全体の勝利への執念が、中国より弱かったとしか考えられません。

本当に落としてはならないゲームを落とし、失ってはいけない王座を失ったショックは大きいが、しかし、いつまでもくよくよしていても始まりません。いますぐにでも選手一人一人が次の目的を持ち、一丸となってチャレンジしていくことが、我々に課せられた使命感だと思います。

ところで、本大会が豊かな日本に比べ低開発国のインドで開かれたために日常生活その他の面で色々とやっかいな面がありましたが、選手一人一人はこの悪環境を良く克服して、コンディションづくりに努力し、チームとしては、最善のコンディションで試合が出来たことについて、このようなチームメートに恵まれたことをキャプテンとして誇りに思います。本当に良く頑張ったと思います。

最後になりましたが、この第9回アジア競技大会に参加出場させていただいたことを名誉に思い、また、関係者の方々のこの大会にお寄せいただいたご努力に厚くお礼申し上げます。

全日本選手として初めて 国際大会に参加して

FP　高木　俊二

私にとって、全日本の選手に選ばれ、しかも、初めてのアジア大会に参加する資格を与えられたことは、まるで夢のようであり、嬉しさを通り越してとても不安な気持でした。その第一は、技術的にうまくやっていけるかなあという心配、第2に激しい練習についていけるかなあという不安でした。

でも選ばれた以上、とことんやれるまでやってみよう、この機会に大いに勉強しようという決意のもとに合宿練習や、その後のアジア大会にのぞみました。

いざ大会が始まって一番深く感じたことは、それぞれが、対戦チームや選手に対する厳しい研究的な姿勢でした。

特に、ゲーム前の相手チームおよびプレーヤーの分析と対策の徹底、ゲームでは、この戦略戦法を基にした個々の気迫あふれるプレー等、国際試合の経験が豊富な諸先輩方にいろいろ教わりましたし、また、外国選手の数多くのプレーを見て、これから練習で向上させなければならない、戦術や技術面の問題点も見い出しました。

さらに、自分の生活態度や行動

がチームに影響し、試合につながるんだということを身をもって知りましたしたがって今後は、全日本選手の一員として恥ずかしくないよう今度の大会で得た、いろいろな知識や経験を生かして成長しようと考えています。

最後になりますが、このような貴重な機会を与えてくれた、ハンドボールの関係者に深く感謝し、今後期待に応えるよう努力することを誓います。

不便な環境を克服していった
有意義な選手村での生活

GK 大畑 孝広

先ず、私達がアジア大会出発前に一番気をつかったことは、飲料水と、気候の問題でした。

特に、私が全体の食糧関係を担当する役割を命じられたことによって、この面での配慮を欠いて、選手達がプレー上で支障をきたしては大変だと思い、蒸溜器、医薬品、日本食などの配慮に神経をつかい最低限必要な物は準備しました。そして、これらを持参していよいよインドに乗り込んだ時の第一印象は、気候の点では日本で想像していた以上の暑さであり、しかもその感じは、まるで、服を着てサウナに入ったような不快感であった。この感覚は私のみではなかった証拠に、チームメートの顔が、一瞬、交通事故の現場を見たような驚きの顔に変化したのを覚えています。

選手村へ入ってから直ちに部屋割りをされ、身の廻りの物を整頓した後、シャワーを浴びようとして栓を捻っても渇水でまったく出ず、この点、気候の違い、設備の不備といい、これからどうなることかと前途に暗雲が立ち込めたような気持で一杯でした。

しかし、人間というものは不思議なもので、このような不安と心配な日々が二、三日続くと、このような環境を克服しようとする力が働き、いろんな知恵が浮かんでひとつひとつ解決していきました。

先ず飲料水の問題は、水を沸騰させ、それを水で冷やして飲むようになり、始め口に合わなかったインド料理に慣れようと、いろいろな食事にトライしたりして、短時間に、それぞれが自分なりにインドやインド人の生活に溶け込む努力をしました。

このような努力と、日本からのいろいろな物資の差し入れなどもあり、出発前に考え、入村した時に感じた時よりは、快適なインドでの生活でした。

次に、一時心配した気候の点では、入村後4日目に雨が降り、翌日から気温がぐっと下って日本の10月上旬のような絶好の競技日和になりました。

最後に、滞在期間中に特に感じたことの一つは次の事であります。インド国やインド人は、我が日本に比べ、物質的にも経済面でもとても貧困な気がしましたが、精神的な面ではとても豊かなような印象を受けました。この点、日本は経済大国になり、われわれ日本人が贅沢にどっぷり浸っているため、大切なものを失いつつあるということをこの大会を通じて体得することができました。

中国戦に敗れた反省
走って守れるチームづくりを

蒲生 晴明

今回のアジア大会の目標は、金メダルだったが、決勝で今まで負けたことのない中国に敗れた。

敗因を分析してみると、ディフェンス面の問題点が上げられる。世界選手権予選でも1点差であったが、18対17で17点で守れているが今回は、19対24で7点も多く取られている。このことは、中国のオフェンス力の向上もさることながら日本のディフェンス面での技術（テクニック・駆引・読み）が未熟であることを指していると思う。特に、2対2・3対3の基本的なディフェンス力が弱まっている。以前、ディフェンス面での体力がないといわれていたが、現在はその体力が、アジア他国と比較しても、劣らないぐらいあるが、ゲームでは、ベテランの力を借りてプレーしている状態である。ロサンゼルス・オリンピックの予選が来年あるが、この問題を日本ハンドボール界として真剣に検討し、大型の選手のディフェンス技術の向上を図らねばならないと思う。

一方、オフェンス面については国内のチームがほとんど一線ディフェンスということもあり、今回中国の変則5－1ディフェンスを打破ることができなかった。また組織的なプレーを練習してきたがそれがこのディフェンスにとまどい、個人プレーになってしまった。また、日本のお家芸としていた速攻も、思うように出せずリズムをつかめないままゲームが終了したような気持ちである。

今後、オリンピックの予選に勝つには、守って走るチーム作りをすることが勝つための条件と思う国際試合において、一回のオフェンスで一点を取らねば、逆に入れられてしまうということを選手全員が肝に銘じてトーニングしなければ、守って走るチームは完成しない。

アジア大会チーム記録

	攻撃回数	シュート回数	シュート成功	シュート失敗	攻撃成功率 (シュート成功/攻撃回数)	シュート成功 (シュート成功/シュート回数)	率保持ミス率 (攻撃回数−シュート回数/攻撃回数)
(11/23) 日本	51	47	35	12	0.69	0.74	4.08
U.A.E	52	33	19	16	0.37	0.56	17.33
(11/25) 日本	50	42	26	16	0.52	0.62	0.16
インド	50	30	12	18	0.24	0.40	0.40
(11/26) 日本	47	38	25	13	0.53	0.66	0.19
クウェート	46	PT 3/3 30 PT 6/8	CH.FU5 20 CH.FU8	10	0.43	0.67	0.35
日本	44	33	21	12	0.48	0.63	0.25
韓国	43	37	20	17	0.47	0.54	0.16
日本	44	31	19	9	0.43	0.61	0.30
中国	44	31	24	5	0.54	0.77	0.16

フットワークはフォーメーションから生まれます。
だれが駆けても、

シティは、スポーツマン。

CITY TURBO



こんなホットな出来事は、はじめて。シティが、またまた感度をアップしました。世界初のFF1.2ℓハイパーターボ搭載です。豪快な瞬発力。一気に攻めのぼるダイナミックな走り。驚くほどの低燃費。これこそホンダの考えるターボだ、との自信をみなぎらせ、いま圧倒的な速さでシティターボが駆けだしました。時代がビンビン反応します。ホットワークがさらに広がります。ライヴです。衝撃的です。シティターボです。ことし、最大のニュースです。



100馬力ハイパーターボ登場

ターボ車ナンバー1
10モード燃費
18.6km/ℓ

HONDA

本田技研工業株式会社鈴鹿製作所

第25回（女子18回）全日本学生選手権大会

大阪体育大〈男子〉 筑波大〈女子〉 が激戦を制す

男子

▽1回戦

大阪大 33（21 12－10 13）23 福岡大

得	【大阪】		【福岡】	得
0	野口	GK	小山	0
0	高井	GK	田中	0
12	相良	FP	古賀	1
0	山崎	FP	島村	9
0	新野	FP	菅原	1
6	田坂	FP	山本	0
0	水谷	FP	柏原	0
2	長田	FP	広瀬	3
7	永井	FP	平田	2
3	森田	FP	牟田	7
0	南	FP	仲里	0
3	鈴木	FP	加賀	0
33	（6）	PT	（3）	23

（審・森、板倉）

○…立ち上がり福岡の小気味よいシュートに6対1とリードを許した大阪は、ディフェンスを固めて反撃に移った。前半終了間際から主軸の水谷を相手のラフプレーから負傷で欠くというアクシデントに見舞われたものの、後半は福岡の攻撃を許さず余裕をもって2回戦に駒を進めた。

中央大 36（22 14－9 7）16 広島大

得	【広島】		【中央】	得
0	河合	GK	木村	0
0	柳川	GK	宇田川	0
0	泉谷	FP	中川	5
0	斉藤	FP	庄司	7
3	林	FP	下戸成	0
0	木村	FP	太田	4
0	稲葉	FP	安沢	5
0	森	FP	藤田	3
7	百留	FP	実方	5
2	村上	FP	大谷	2
4	飯島	FP	清家	4
0	松原	FP	大木	1
16	（4）	PT	（0）	36

（審・浅田、岩本）

○…立ち上がりから中央はスピードある動きで広島大を圧倒、一方的にリード。

しかし、20分すぎから攻撃が雑になり広島大に得点を許す。

後半に入ると中央はスピードある攻防で着々と加点、一方的な勝利を得た。

中京大 26（14 12－12 9）21 早稲田大

得	【早稲田】		【中京】	得
0	梅宮	GK	則武	0
0	西畑	GK	柿木	0
4	田畑	FP	田中	4
2	飯名	FP	太田	2
6	小山	FP	黒田	2
3	関口	FP	牧野	6
3	村越	FP	河原	4
0	村田	FP	池辺	0
0	菊島	FP	犬塚	0
0	古平	FP	今井	3
3	加藤	FP	酒巻	5
0	今田	FP	岩田	0
21	（3）	PT	（6）	26

（審・福田、佐伯）

○…前半中京大ペースで得点、早大も追いついたが再度中京大が突き放し前半終了。後半に入り、早大ディフェンスに乱れが生じ、退場、失格が相つぎ、その間に中京大は得点し、うまくリズムに乗った。

早大は攻守のリズムを欠き、悔まれるゲームであった。

福島大 31（16 15－13 13）26 近畿大

得	【近畿】		【福島】	得
0	国方	GK	花渕	0
0	久島	GK	福島	0
2	吉井	FP	斉藤仁	4
4	伊藤	FP	鎌田	11
6	岩崎	FP	高橋	1
1	和田	FP	斉藤雅	3
7	藤田	FP	鈴木	0
0	今田	FP	尾形	9
3	佐伯	FP	池田	2
0	新井	FP	石川	1
0	二場	FP	永久	0
3	吉川	FP	米内山	0
26	（2）	PT	（2）	31

（審・横井、岩永）

○…立ち上がり、福島大が2点先取し、以後終始熱戦をくり広げたが、チャンスに確実に得点した福島大が勝利を収めた。

九州産業大 34（15 19－10 11）21 愛知教育大

得	【愛教】		【九産】	得
0	上屋	GK	福川	0
0	後藤	GK		
5	淡路	FP	吉野内	4
1	木村	FP	難波	0
6	鈴木	FP	松本	7
0	佐藤	FP	植木園	4
1	青木	FP	三宅	1
3	森彰	FP	桑原	0
1	森岳	FP	牟田	0
1	井上	FP	坂下	3
3	岸	FP	高橋	13
0	鳥居	FP	安河内	2
21	（1）	PT	（2）	34

（審・望月、太田）

○…前半20分過ぎより、愛知教育大2、4のロングシュートが決まらなくなり攻撃面で単調となる。一方九州産大は、ポスト、サイドプレー等と幅広いプレーを使いわけ一方的な試合となった。

法政大 31（20 11－7 12）19 金沢工大

得	【金工】		【法政】	得
0	内田	GK	北原	0
		GK	山田	0
2	山本	FP	細井	4
4	高橋	FP	山下	0
0	中沢	FP	野口	7
4	山田	FP	上野	1
0	山岡	FP	高良昇	7
4	藤井	FP	高良茂	6
3	小林	FP	今井	0
0	曽我部	FP	辻	0
2	喜多	FP	水之江	3
0	五十嵐	FP	藤井	3
19	（0）	PT	（3）	31

（審・新井、大原）

○…実力がほぼ似ているもの同士の試合で好試合であったが、後半15分過ぎから金沢の攻撃が雑になり、法政の速攻により点差が広がってしまった。

名城大 25（16 9－5 4）9 函館大

得	【函館】		【名城】	得
0	笹川	GK	蓑輪	0
0	神	GK	菊地	0
1	堤	FP	古橋	4
0	清水貴	FP	立木	4
2	高田	FP	林	3
1	遠藤	FP	平井	1
2	吉田	FP	桜田	3
0	佐々木	FP	神原	2
3	容原	FP	河村	4
0	清水宣	FP	横山	0
0	沼田	FP	広瀬	3
0	駒場	FP	竹田	1
9	（2）	PT	（2）	25

（審・清水、菊地）

○…立ち上がり、両軍固さがとれずミスの連続、名城の方が自分のペースを早くつかみ前半を終えた。後半、函館は攻め手がなく、パスミスがめだち、名城の速攻が勝負を決めた。

慶応大 31（14－13、17－6）19 南山

	【慶応】	得	【南山】	得
GK	上原	0	榊原	0
GK	青木	0	杉山	0
FP	秋田	4	小菅	1
FP	山口	4	森	1
FP	津村	3	林	1
FP	余語	5	小塚	0
FP	泉	0	久野	4
FP	宮沢	4	粕谷	0
FP	渡辺	2	森野	4
FP	川本	0	久原	4
FP	平林	5	合田	0
FP	高岡	4	大西	4
PT	(1)	31	(1)	19

（審・吉田 杉山）

○…ゲームが進むにつれて慶大の攻撃、防御ともにコンビがよく南山大もシュートのチャンスはあるが決定的な一打につながらなく慶大に加点を与えた。後半に入って、南山大の奮起によってゲームは一進一退の好ゲームになったが、如何せん前半の失点が勝敗を決定した。

▽2回戦

筑波大 39（19－5、20－4）9 大阪大

	【筑波】	得	【大阪】	得
GK	佐藤	0	野口	0
GK	山崎	0	高井	0
FP	中島	5	相良	1
FP	岡辺	2	山崎	0
FP	竹野	3	新野	0
FP	古屋	5	田坂	0
FP	原井	1	水谷	3
FP	吉兼	9	長田	1
FP	朝生	7	永井	3
FP	児玉	4	森田	1
FP	杉森	0	南	0
FP	角	3	鈴木	0
PT	(3)	39		9

（審・川島 荒川）

○…筑波大は攻撃、防御ともにチームがよくまとまっており、自己のペースでゲームを進めた。一方、大阪大は相手チームの軽いディフェンスに阻まれ、なかなか得点をあげる事ができなかった。両チームともきれいな攻防で好感のもてるゲームであった。

中央大 28（13－17、15－8）25 中部工大

	【中央】	得	【中部工】	得
GK	木村	0	新垣	0
GK	宇田川	0	玉ノ城	0
FP	中川	3	下地	0
FP	床司	5	川満	0
FP	下戸成	3	吉元	0
FP	太田	0	山本	2
FP	安沢	1	宇栄原	0
FP	藤田	3	高市	5
FP	実方	10	宮城	7
FP	大谷	0	荷川取	7
FP	清家	3	河原	4
FP	松田	0	本山	0
PT	(4)	28	(1)	25

（審・福田 佐伯）

○…体格的には見劣りのしない中部工大。前半荷川取、高市の活躍でリードを常に保った。

しかし、中大は20分過ぎると実方が本領を発揮し逆転する。以後中大ペース。前半7点差で終る。

後半、中部工大は必死に追い上げたが、前半の差があまりにも多過ぎた。

国士舘大 28（15－12、13－13）25 中京大

	【国士舘】	得	【中京】	得
GK	藤川	0	則武	0
GK	渡辺	0	柿木	0
FP	黒沢	1	田中	1
FP	遠藤	4	太田	3
FP	栗山	5	黒田	5
FP	池田	5	牧野	2
FP	新垣	2	苅野	0
FP	金丸	0	河原	6
FP	田村	7	池辺	0
FP	内藤	0	犬塚	0
FP	鈴木	4	今井	3
FP	綿引	0	酒巻	5
PT	(2)	28	(2)	25

（審・森 板倉）

○…立ち上がり、国士舘が3点先取、その後は互いに点の取り合いになったが中京が追いつき前半は同点で終った。後半は、中京が先制したが国士舘は遠藤、田村の活躍で逆転しそのまま逃げ切る。

同志社大 35（19－14、16－7）21 福島大

	【同志社】	得	【福島】	得
GK	渡井	0	花渕	0
GK	花田	0	福島	0
FP	豐江	4	斉藤仁	2
FP	高砂	5	鎌田	7
FP	森重	2	高橋	1
FP	山田	3	斉藤剛	4
FP	児玉	2	鈴木	0
FP	宮下	11	尾形	5
FP	鈴木	0	池田	2
FP	輿畑	7	石川	0
FP	岩本	0	永久保	0
FP	三幸	1	米内山	0
PT	(2)	35	(1)	21

（審・福田 佐伯）

○…同大は多彩な攻撃でゲームの主導権を握り、着実に加点、福島大も相手チームのマークの甘さにつけいるが差がつまらず前半終了。後半に入って、同大は宮下の活躍によってメンバーチェンジする余裕も見せた。一方、福島大も甘いディフェンスをかいくぐってシュートするが、GKに好守されチャンスの糸口が切れてしまった。反則の少ない好ゲームであった。

日本大 28（15－8、13－4）12 九州産業大

	【日大】	得	【九産】	得
GK	森田	0	福川	0
GK	宮田	0		
FP	糸	5	吉野	3
FP	永井	3	難波	1
FP	伊藤	5	松本	0
FP	菅沼	2	植木園	2
FP	田口	3	三宅	0
FP	河村	1	卒田	0
FP	田崎	2	坂下	0
FP	内藤	6	高橋	5
FP	金原	0	安河内	0
FP	武田	1	大庭	1
PT	(4)	28	(1)	12

（審・川島 笹野）

○…前半は両チームともでだしから固さが目立ち凡ミスが多かったが、地力で上回る日大が有勢に試合を進めた。後半も着実に日大は得点を重ね、九産大を突き放した。

大阪経大 24（9－14、15－8）22 法政大

	【大経】	得	【法政】	得
GK	植田	0	北原	0
GK	高野友	0	山田	0
FP	高野元	4	細井	0
FP	吉川	1	山下	0
FP	中野	9	野口	7
FP	上肥	0	飯沼	0
FP	金谷	7	高良昇	5
FP	松下	2	高良茂	5
FP	代野	0	今井	0
FP	田端	0	木村	0
FP	佐多家	0	水之江	5
FP	林	1	藤井	0
PT	(3)	24	(3)	22

（審・清水 菊地）

○…前半、気迫と動きのスピードに勝る大経大がうまくつないでリード、後半に入って法政大は、ディフェンス、オフェンスともに動きがよくなり追い上げるが、ミスが出て、ついに大経大に逃げ切られた。

日体大 41（22－4、19－7）11 名城大

	【日体】	得	【名城】	得
GK	中村	0	蓑輪	0
GK	石井	0	菊地	0
FP	寺山	3	古橋	2
FP	金丸	4	立木	6
FP	中山	2	林	1
FP	三浦	4	平井	0
FP	黒島	5	桜田	0
FP	高村	6	神原	0
FP	喜舎場	10	河村	2
FP	佐々木	4	横山	0
FP	田中	2	広瀬	0
FP	牧島	1	竹田	0
PT	(7)	41	(1)	11

（審・森 板倉）

○…技、力ともに勝る日体大が予想以上の大差をつけて勝つ。

大阪体大 30（15－11、15－6）17 慶応大

	【大体】	得	【慶応】	得
GK	高橋	0	上原	0
GK	小野	0	青木	0
FP	山本	9	秋田	3
FP	上野	3	山口	1
FP	土山	2	津村	0
FP	玉村	7	余語	0
FP	菅沼	2	宮沢	0
FP	半田	0	泉	0
FP	西村	5	渡辺	2
FP	長野	0	川本	0
FP	小間	1	平林	10
FP	古賀	1	高岡	1
PT	(7)	30	(4)	17

（審・清水 菊地）

○…大体大GK小野の好守により慶応は前半より苦戦、10分以後15分間ノーゴール。その間大体大は速攻にロングにと思うがままに攻めた。後半、慶応・平林のロングが決まり出したが大勢には変りなかった。

▽準々決勝

筑波大 14（11－9, 3－4）13 中央大

得	【中央】		【筑波】	得
0	木村	GK	佐藤	0
0	宇田川		山崎	0
1	中川	FP	中島	3
1	庄司	（審・福田・佐伯）	竹野	0
1	下戸成		古屋	3
0	太田		原井	1
2	安沢		吉兼	1
2	藤田		朝生	4
4	実方		児玉	0
0	大谷		武井	0
2	清家		角	2
0	松田		杉森	0
13	(2)	PT	(1)	14

○…事実上の決勝戦と陰で噂された両軍の対戦は、関東学連秋リーグと同様、大接戦となったが、その内容は興味のあるものであった。大型プレーヤーのサーキュラースタイルのボール操作は、パスシュートによるボール軌跡を床上ほぼ2mにも達する高い地点に画くものであった。前半を一進一退の得点経過ながら2点のリードを得た筑波大は、後半18分に得点をうるまで中央GKの好守にあいゼロの行進であったが、中央の拙攻に救われ、最少得点差で勝利を得た。

国士舘大 20（10－5, 10－6）11 同志社大

得	【同志社】		【国士】	得
0	渡井	GK	矢内	0
0	花田		渡辺	0
3	蟹江		黒沢	1
0	高砂		遠藤	6
2	森重		栗山	1
2	山田		池田	6
0	児玉	FP	新垣	0
1	宮下	（審・森・板倉）	金丸	0
0	鈴木		田村	3
3	奥畑		内藤	0
0	岩本		鈴木	3
0	三幸		綿引	6
11	(0)	PT	(4)	20

○…前半15分過ぎまでは、両チームともせり合うがそれ以後は国士館の連続速攻による得点で差が開いてしまった。後半も国士館の厚いディフェンスの前に同志社は攻めあぐんでしまった。国士館はGK矢内を中心とするディフェンスのチームで守りに守りを重ね、相手のミスを誘い速攻に結びつけるパターンで試合を進めるのに対し同志社はセット攻撃を中心とする攻めのチームであったが、国士館のディフェンス力が同志社のオフェンス力を上回っていた。

日本大 23（10－5, 13－7）12 大阪経大

○…前半開始後15分間は両チーム一進一退の好ゲームを展開していたが、日大が田口、永井らのロング、カットインなどで引き離し結局前半終了時には5点差がついてしまった。後半も開始後10分間は

得	【日大】		【大経】	得
0	森田	GK	植田	0
0	宮田		高野	0
4	糸		高野	0
3	永井		吉川	6
0	馬場		中野	3
1	菅沼		土肥	1
1	宮沢	FP	金谷	2
7	田口	（審・川嶋・笹野）	松下	0
1	田崎		代野	0
3	内藤		林	0
1	金原		長田	0
2	武田		城戸	0
23	(3)	PT	(1)	12

大経大・中野らのミドルが決まってリズムにのりかけたが、いい所でミスが出て日大のペースをとりもどさせてしまった。大経大GK植田の好守が再三みられただけにディフェンスのがんばりがもう少しほしいゲームであった。

大阪体大 25（12－9, 13－13）22 日体大

得	【日体】		【大体】	得
0	中村	GK	高橋	0
0	石井		小野	0
3	寺山		山本	10
1	金丸		上野	2
3	中山		土山	1
3	三浦		玉村	7
1	黒島	FP	菅沼	3
7	高村	（審・横井・岩永）	半田	0
1	喜舎場		西村	2
2	佐々木		長野	0
1	望月		小間	0
0	田中		古賀	0
22	(3)	PT	(4)	25

○…大型チーム同士の対戦は、GK小野の度重なる好守と左腕エース玉村の切れ味鋭いシュートで大阪体育大が宿願の打倒日体大を果たした。大体大はよく足を使った守りから攻めても思い切りよく日体ディフェンスを崩し、玉村のシュート力をよく生かした。一方、日体は守りの足がなく、終始守勢に立たされ持ち前の豪快さを生かす事ができなかった。

▽5位決定戦

同志社大 21（10－7, 7－10, 2－1, 2－1）19 大阪経大

得	【大経】		【同志社】	得
0	植田	GK	渡井	0
			花田	0
2	高野		蟹江	0
5	吉川		山田	3
5	中野		児玉	3
0	土肥		宮下	5
3	金谷	FP	鈴木	2
4	松下	（審・川島・森）	奥畑	2
0	代野		田岡	0
0	田端		岩本	1
0	佐多家		三幸	5
0	林		池辺	0
19	(3)	PT	(2)	21

○…大経大がベストメンバーで臨んだのに対して同志社大は来年度のメンバーでスタートした。立ち上がり昨日敗れた影響のためか共に元気がなく、ミスも目立ちなかなか点が入らなかった。中盤から同大のエース宮下の連続ゴール等で大経大をリードする展開となって前半を終了。

後半に入り、大経大は宮下にマンツーにつき同大のシュートミスを誘って連続速攻で追いつき、一時は逆転したが、終了間際大経大に退場者が出たために再び同点となり延長までもつれ込んだ。延長になって大経大のシュートがわずかにはずれるという不運もあって

同大が勝利を収めた。

日体大 18（7—8, 11—9）17 中央大

得	【中央】		【日体】	得
0	木村	GK	中村	0
0	宇田川	GK	石井	0
3	中川	FP	寺山	0
1	庄司	FP	金丸	0
3	下戸成	FP	中山	0
0	太田	FP	三浦	1
0	安沢	FP	黒島	2
2	藤田	FP	高村	1
4	実方	FP	喜舎場	4
0	大谷	FP	佐々木	6
4	清家	FP	望月	0
0	松田	FP	田中	4
17 (2)		PT		(0) 18

（審・望月、太田）

○…前半、日体大は高村、佐々木のロングシュートで点を取り、ディフェンスでは高さで中央大のロングを阻む。これに対して中央大は、13分過ぎ日体大のペナルティーをGK宇田川が顔面に受け退場したが、実方、中川のカットインで点を取り、互角で前半を終了。後半開始5分、日体大は喜舎場のサイドシュート、田中の速攻で逆転した。両チームともロングシュートを持ち味としているが、後半は互いに速攻、カットインからのシュートが多く見られた。試合は結局、確実性に勝った日体大が18—17と辛くも勝った。

日体大 22（13—8, 9—8）16 同志社大

得	【日体】		【同志社】	得
0	中村	GK	渡井	0
0	石井	GK	花田	0
3	寺山	FP	蟹江	7
4	金丸	FP	高砂	1
0	中山	FP	森重	1
0	三浦	FP	山田	0
4	黒島	FP	児玉	1
6	高村	FP	宮下	5
2	喜舎場	FP	鈴木	0
2	佐々木	FP	奥畑	0
0	望月	FP	岩本	0
1	田中	FP	三幸	1
22 (0)		PT		(2) 16

（審・清水、菊池）

○…立ち上がり同大・宮下と日体大・高村の両エースの打ち合いで始まり、また、同大の放ったシュートのフォローが同大選手のところに転がるという幸運もあって中盤まで競り合った。しかし、日体大が徐々に地力を出し始め、高村のロングシュートの他にサイドシュート、スカイプレー等が鮮かに決まって点差を広げた。後半に入って同大も蟹江や宮下のシュートで反撃するが、日体大は確実にサイドシュートを決め同大を振り切った。

▽準決勝

国士舘大 14（9—6, 5—7）13 筑波大

得	【国士館】		【筑波】	得
0	矢内	GK	佐藤	0
0	渡辺	GK	山崎	0
2	黒沢	FP	中島	1
0	遠藤	FP	岡辺	0
1	栗山	FP	竹野	0
6	池田	FP	古屋	0
0	新垣	FP	原井	1
0	金丸	FP	吉兼	5
3	田村	FP	朝生	3
0	内藤	FP	児玉	0
2	鈴木	FP	杉森	1
0	綿引	FP	角	2
14 (2)		PT		(1) 13

（審・横井、岩永）

○…序盤戦、国士館の雑な攻めにより逆速攻で2点を先取した筑波であったが、以後国士館GK矢内の好守により思いどおり点が取れず国士館に逆転された。後半、両チームとも攻防ともにラフなプレーが目立った。その中で筑波の方が確実に点を決め、21分に逆転したがすぐに同点に追いつかれ、結局残り1分、国士館・田村が決勝点を決めた。

大阪体大 17（5—8, 12—8）16 日本大

得	【日大】		【大体】	得
0	森田	GK	高橋	0
0	宮田	GK	小野	0
5	糸	FP	山本	2
4	永井	FP	上野	1
0	馬場	FP	土山	1
3	伊藤	FP	玉村	11
1	菅沼	FP	菅沼	0
0	宮沢	FP	半田	0
3	田口	FP	西村	2
0	内藤	FP	長野	0
0	金原	FP	小間	0
0	武田	FP	古賀	0
16 (3)		PT		(2) 17

（審・川島、森）

○…前半、日大は田口のフェイントからのミドルシュートと伊藤のサイドからの絶妙なシュートとGK森田の好守により大体大を3点リードして折り返す。一方、大体大は左腕・玉村のロングがよく決っていた。GK小野の好守も光る。後半に入り、日大・永井の退場の間に大体大が逆転した。後半に入っても玉村のロングシュートがよく決まり、最後まで試合はわからなかった。残り2分になり、大体大は退場が2人出たが辛くも1点を守り切り決勝戦へ進出した。

熱戦の準決勝＜上＞大阪体育大—日本大
＜下＞筑波大—国士館大

▽3位決定戦

筑波大 20（12—7, 8—8）15 日本大

得	【日大】		【筑波】	得
0	森田	GK	佐藤	0
0	宮田	GK	山崎	0
2	糸	FP	中島	3
4	永井	FP	岡辺	0
1	馬場	FP	古屋	4
3	菅沼	FP	原井	0
3	田口	FP	吉兼	1
0	河村	FP	朝生	3
0	田崎	FP	児玉	2
2	内藤	FP	杉森	2
0	金原	FP	角	5
0	武田	FP	武井	0
15 (2)		PT		(4) 20

（審・横井、岩永）

○…お互いに決勝進出を予想されながら惜しくも最少得点差で苦杯を喫した両チームの3位決定戦であったが、気持ちの切り換えがうまくいった筑波に対して日大のプレーは精彩を欠いた。しかし、試合開始後筑波が4連続得点をあげた後は一進一退のゲームが続き予断を許さぬ展開となったが、結局、筑波が終始リードを守り、勝利を収めた。

▽決勝

大阪体大 19（6—13, 13—5）18 国士館大

得	【国士館】		【大体】	得
0	矢内	GK	高橋	0
0	藤川	GK	小野	0
2	黒沢	FP	山本	6
3	遠藤	FP	上野	2
4	栗山	FP	上山	0
3	池田	FP	玉村	1
2	新垣	FP	菅沼	6
0	金丸	FP	半田	0
3	田村	FP	北井	0
0	内藤	FP	西村	4
1	鈴木	FP	長野	0
0	綿引	FP	古賀	0
18 (1)		PT		(2) 19

（審・清水、菊池）

○…7年ぶりの関東、関西対決に場内は選手紹介から二分され、盛り上がった雰囲気で始まった。

大体大は、開始直後動きが堅かったが、5分、山本のサイドシュートが決まってから徐々にほぐれ着実に加点する。一方、国士舘大は10分過ぎ4対4から得点が止まり20分頃からあせりが出はじめたため大体大に速攻を許し、大差で前半を終了する。

後半に入り5分過ぎから大体大の動きが鈍くなり、国士大の追撃が始まる。国士大は、前半の大差で思い切った動きに変わり、速攻やカットインなどの多彩なプレーで加点し、25分には同点に追いつく。その後、両チームにプレッシャーがかかり、最後5分間の勝負となり、激しい闘志のぶつかり合いで観衆を沸かせたが、終了間際に大体大の菅沼が強引なカットインシュートを決め、劇的な幕切れとなり、大体大が念願の初優勝を決めた。


関西に初の栄冠をもたらした大阪体育大（準決勝・対日大戦）

女子

▽1回戦

九州女短大 26（11－11 15－12）23 東京学芸大

得	【九短】		【東学】	得
0	三谷	GK	狩野	0
0	伊是名		井上	0
6	小野	FP	本橋	4
13	久保田		鈴木	10
3	平岡		片岡	4
2	河田		内山	0
2	梅崎		藤原	2
0	松永		宮崎	3
0	三宅		細田	0
0	大山	（審・新井・大原）		
0	福田			
0	三好			
26 (7)		PT		(2) 23

○…前半は両チームとも点の取り合いとなったが、東学大のディフェンスの甘さをついたサイド、ポストシュートで、九州女短大がわずかにリードを奪った。後半も一進一退の好ゲームを展開したが終了3分前に九州女短大が平岡－久保田のスカイプレーを決め、追いすがる東学大を突き放した。

東京女体大 34（14－3 20－7）10 中京女大

得	【東女】		【中京】	得
0	中川	GK	山本	0
0	大坪		浅井	0
4	増子	FP	大久保	4
17	鈴木		野村	2
0	妹川		徳永	0
0	内山		山田	1
0	喜田		吉田	2
5	宮嶋		杉野	1
4	小池	（審・吉川・杉山）	鈴木	0
3	田島		長屋	0
1	二村		高田	0
0	篠原		池田	0
34 (11)		PT		(1) 10

○…スタートはお互いにペースの探り合いで、5分間で東女体大のペナルティー1本、1対0と点がとれない。しかし、6分東女が速攻で2点目を入れてから15分までの10分間で8点、そのうち6点を鈴木1人で決め、すっかり東女体大ペース。前半で20－7と大きくリード。後半も一方的にリードを奪い盛り上がりに欠けた凡戦となった。

武庫川女大 27（13－4 14－0）4 福岡大

得	【武庫川】		【福岡】	得
0	水谷	GK	赤木	0
0	三宅			
5	藤山	FP	山田	0
3	富田		栗林	0
1	守行		古柳	1
1	久保		谷口	2
2	高橋		長野	1
2	前田		土井	0
4	岡山	（審・皇月・太田）	延岡	0
7	茂山		宮川	0
0	野村			
2	仲			
27 (3)		PT		(2) 4

○…前半10分頃まで、両チーム初戦のためか動きが悪かったが、15分過ぎより武庫川ペースの試合展開となり、連続得点を重ねて前半で勝負を決めた。

福岡大は前半、無得点の不振が最後まで響いた。

日体大 26（14－8 12－4）12 中京大

得	【中京】		【日体】	得
0	竹内	GK	高倉	0
0	板谷			
2	鈴木	FP	天野	1
0	安田		国村	5
4	山本		池内	2
2	安田		吉岡	7
1	中島		石原	4
1	牧野		山木	3
2	富田	（審・杉山・吉田）	李	0
0	杉野		広瀬	0
0	浅野		上嶋	0
0	田中		小口	4
12 (0)		PT		(2) 26

○…立ち上がり中京が鈴木のカットインプレーで1点、5分日体が吉岡のミドルで得点、10分間までやや固い動き。20分までに日体が7－1と差を広げたが、その差はコンビのつながりの多い日体とややスタミナ不足の中京の守りの差と考える。

福岡教育大 23（15－11 8－7）18 茨城大

得	【茨城】		【福教】	得
0	平沢	GK	富田	0
6	金平	FP	曽我部	11
1	谷萩		日石	6
4	市川		大塚	2
3	横田		額田	3
2	武藤		柴田	0
2	海老原		石松	1
0	細井	（審・横井・岩永）		
0	藤田			
0	松本			
18 (2)		PT		(2) 23

○…前半、福教大は茨城大の粘りのあるディフェンスを攻めあぐみ、エースの曽我部にも今一つ切

れ味なく苦戦を強いられたが、後半、茨城大のシュートの浮くところを速攻に持ち込み突き放した。茨城大は、粘りのある守りとドリブルを多用した攻撃でよく対抗したが、決定力の差をくつがえしえなかった。

大阪教育大 17（9－5, 8－6）11 日女体大

得	【大教】		【日女】	得
0	鬼村	GK	佐藤	0
0	橋本	GK	田中	0
3	山崎	FP	渡辺	4
4	芝崎	FP	向井	0
5	丸山	FP	中島	0
0	村田	FP	島袋	0
1	西川	FP	田井	1
3	塩見	FP	金井	5
0	大植	FP	土屋	1
1	生長	FP	矢沢	0
0	小倉	FP	安藤	0
0	中島	FP	北井	0
17 (1)		PT		(0) 11

（審・新井・大原）

○…前半10分頃まで日女体大がリードしたが、大教大の脚がよく動くようになり逆転して前半を終了。後半に入り大教大の脚が止まると日女体大が逆転。しかし大教大が再逆転して逃げ切った。

大阪体大 44（21－6, 23－5）11 岩手大

○…立ち上がり5分両チームとも互角に得点したが、その後大体大はディフェンスにまとまり、速攻で加点し一方的なゲーム展開となった。

大体大の攻守ともにスピードに勝ったゲームであった。

得	【岩手】		【大体】	得
0	菊地	GK	竹山	0
		GK	吉田	0
1	川村	FP	塚田	9
4	藤井	FP	伊勢	6
1	藤原	FP	大里	1
1	樋市	FP	筒井	2
3	千葉	FP	望月	1
1	田口	FP	池上	11
0	菊地	FP	松木	2
		FP	森山	4
		FP	川端	3
		FP	藤田	5
11 (3)		PT		(5) 44

（審・浅田・岩本）

▽準々決勝

筑波大 31（18－6, 13－5）11 九州女短大

得	【筑波】		【九短】	得
0	久保	GK	三谷	0
0	樽谷	GK	伊是名	0
2	山口	FP	小野	2
6	河原	FP	久保田	4
6	鈴木	FP	平岡	1
1	山田	FP	河田	1
2	大地	FP	梅崎	3
0	池田	FP	松永	0
3	伊賀	FP	三宅	0
4	高木	FP	五庵	0
7	中田	FP	大山	0
0	茶川	FP	三好	0
31 (2)		PT		(2) 11

（審・新井・大原）

○…前半20分までは九州女短大の健闘が目立ったが、力に勝る筑波大が徐々に引き離し、13－5で前半を終了。後半に入ると地力に勝る筑波が着々と加点、大差で勝利を得た。

武庫川女大 17（7－8, 6－5, 1－1, 3－1）15 東京女体大

○…1点を争うゲームを展開した白熱した一戦だった。延長に入っても両チームとも譲らず前半終了。後半に入って東女体大にあせりが出たのかミスが続きこのゲームを決定づける。

得	【武庫川】		【東女】	得
0	水谷	GK	中川	0
0	三宅	GK	大坪	0
3	藤山	FP	増子	1
4	富田	FP	鈴木	6
0	梅木	FP	妹川	0
0	守行	FP	内山	0
4	神並	FP	喜田	0
2	前田	FP	宮脇	0
1	岡山	FP	小池	3
0	茂山	FP	田島	4
0	野村	FP	二村	1
3	仲	FP	篠原	0
17 (2)		PT		(5) 15

（審・清水・菊池）

日体大 31（14－12, 17－5）17 福岡教育大

得	【日体】		【福教】	得
0	高倉	GK	富田	0
0	広瀬	GK		
4	天野	FP	曽我部	12
3	国府	FP	白石	3
0	高橋	FP	大塚	0
4	池内	FP	額田	2
2	石原	FP	柴田	0
2	山本	FP	石松	0
0	李	FP		
0	上嶋	FP		
11	小口	FP		
5	吉岡	FP		
31 (2)		PT		(2) 17

（審・望月・太田）

○…日体大は多彩な攻撃で先取点をあげた。福教大のシュートSをうまくつないで得意の速攻で加点した。一方福教大は、日体大の厚いディフェンスにシュートを阻まれたが、曽我部の活躍が光っていた。後半に入って日体大はメンバーをチェンジしたが、ミスが多く、相手チームに得点のチャンスを与えてしまった。福教大はうまくミスを得点したが、前半の得失点が勝敗を決めていたようだ。

大阪体大 14（7－2, 7－4）6 大阪教育大

得	【大教】		【大体】	得
0	鬼村	GK	竹山	0
0	橋本	GK	田中	0
0	山崎	FP	塚田	5
1	芝崎	FP	伊勢	3
1	丸山	FP	小川	0
0	村田	FP	筒井	0
1	西川	FP	望月	0
2	塩見	FP	池上	3
0	大植	FP	森山	2
1	生長	FP	川端	0
0	小倉	FP	橋本	0
0	中島	FP	藤田	1
6 (0)		PT		(3) 14

（審・浅田・岩本）

○…両チームとも互角に展開しシーソーゲームだったが、前半20分あたりから速攻、森山のロングシュート等が決まり7－4と大体大リードで前半終了。後半、大教大は攻撃が単調になり大体大の速攻を許して差が開いた。



東女体大対武庫川女大の一戦

▽準決勝

筑波大 13（5－3, 8－5）8 武庫川女大

得	【筑波】		【武庫川】	得
0	久保	GK	水谷	0
0	樽谷	GK	三宅	0
0	山口	FP	藤山	2
4	河原	FP	富田	4
1	鈴木	FP	梅木	0
0	山田	FP	守行	0
0	大地	FP	神並	1
0	池田	FP	前田	0
1	伊賀	FP	岡山	1
2	高木	FP	茂山	0
5	中田	FP	野村	0
0	茶川	FP	仲	0
13 (1)		PT		(3) 8

（審・吉田・岩本）

○…前半、両チームともディフェンスが良く、8分くらい全く点が入らなかったが筑波の河原がこの均衡を破り先取点をあげた。以後もしばらく速攻は決らなかったが、14分筑波・高木がステップシュートを決めてから武庫川のディフェンスがくずれだした。武庫川は、筑波の鈴木、大地の退場の間に点を取った。後半、全般にわたる筑波の好ディフェンスにより武庫川GK・三宅も好守を見せたが及ばなかった。

日体大 22（12－10, 10－1）11 大阪体大

○…序盤戦は大体大GK竹山の再三にわたる好守で緊迫したゲームであったが、中盤頃になってから大体大はたび重なりチャージングの反則をとられムードに乗り切れず、また、日体大の厚いディフ

得	【日体】		【大体】	得
0	高倉	GK	竹山	0
0	広瀬	GK	田中	0
1	天野	FP（審・清水 菊池）	塚田	3
4	國府		伊勢	0
0	高橋		小川	0
2	池内		筒井	1
3	石原		望月	0
4	山本		池上	4
0	李		森山	2
0	上嶋		川端	0
2	小口		橋本	0
6	吉岡		藤田	1
22 (2)		PT		(0) 11

エンスのため持ち前のロングシュートが封じられた。
その間に、日体大は、ロングあり、速攻ありと、多彩な攻撃で大体大を圧倒して、前半を終了した。後半に入りようやく調子が出てきた大体大が速攻、ロング等を決め始めたが、依然チャージングの反則が多く、前半の大量得点差のため力尽きた。

▽3位決定戦

武庫川女大 20（14－9／6－2）11 大阪体大

得	【武庫川】		【大体】	得
0	水谷	GK	竹山	0
0	三宅	GK	吉田	0
3	藤山	FP（審・吉田 岩本）	塚田	0
5	富田		伊勢	5
1	梅木		大里	0
0	守行		小川	0
4	神並		筒井	0
0	久保		望月	0
4	岡山		池上	0
0	茂山		森山	4
0	仲		川端	2
3	前田		藤田	0
20 (3)		PT		(5) 11


3位決定戦・武庫川女大対大阪体育大の戦い

○…前半立ち上がり3分、武庫川・神並退場の間に大体大が森山のシュートで先取点。武庫川も7分にペナルティーで同点とし、速攻を決めて逆転。その後両チームともGKの活躍でなかなか得点できなかったが、16分武庫川は速攻からのリバウンドを決め攻撃のリズムをつかみ着々と得点を重ねる。後半に入り、武庫川の早いボール回しに大体大のディフェンスがついていかれずふり回されて得点を許す。後半10分に10点差となり武庫川の一方的な試合となった。

▽決勝

筑波大 15（9－7／6－6）13 日体大

○…昨年の覇者・日体大、今年度の東日本学生優勝の筑波大は、準決勝で関西の二強大体大、武庫川女大を破っての決勝進出である。筑波は前半コントロールタワー鈴木をポストやサイドに使ってボールが回らず苦しんでいる間に日体大に3点のリードを奪われたが、鈴木が本来のポジションに戻ってから歯車が合い、前半終了時には同点とした。
後半立ち上がり、筑波は鈴木、高木の連続得点で日体の焦りを誘い、10分～15分、日体はノーマーク速攻を3本もGK久保に止められてしまい、ペースに乗れず敗因となった。筑波の中田、日体の小口の活躍は1年生であるだけ将来の楽しめる選手だ。
日体大GK高倉の健闘に拍手を送りたい。

得	【筑波】		【日体】	得
0	久保	GK	高倉	0
0	樽谷	GK	広瀬	0
0	山口	FP（審・川島 森）	天野	3
2	河原		国府	1
4	鈴木		高橋	0
0	山田		池内	1
0	大地		石原	0
0	池田		山本	1
2	伊賀		李	0
3	高木		上嶋	0
4	中田		小口	5
0	芥川		吉岡	2
15 (1)		PT		(0) 13

総評 学生のトップを決めるにふさわしい大会

―初めて関西に優勝もたらした大阪体育大の殊勲―

12月1日～5日まで愛知県体育館で開催されたインカレは、男子は大阪体育大の初優勝で、女子は筑波大学の二度目の優勝で幕を閉じた。ゲームは日を追うごとに白熱し、運営、天候（例年になく暖かであった）にも恵まれ、学生のトップを決めるにふさわしい大会であった。

参加チーム数は、一昨年より、男子24、女子16と縮少されている。そのうちわけは、男子・東日本選手権より7チーム、西日本より7チームであり、もう1チームがインカレの開催地が含まれる方に追加される。各ブロックからは代表1チームずつが推薦される。女子は、東日本、西日本よりそれぞれ4チーム、ブロックより8チーム出場する。東日本、西日本大会で代表権を得たチームはシードされている。

上位チームの横顔

＜男子優勝＞大阪体育大チーム

今回でインカレは25回目を迎えるが、男子・女子とも、優勝は、全て関東のチームによってなされてきた。今回の大阪体育大学の優勝は、初めて関東から優勝杯をもぎとったチームとしてインカレ史上に特筆される出来事として記憶されることであろう。今回の大阪体育大学は非常に波に乗り、勢いがあった。これは、インカレ開幕前日に行われた日体大との定期戦では敗れたが、その3日後の日体戦に勝利を得た時に始まったといえよう。サウスポーの長身選手玉村、山本を軸に営沼らが走ってゆさぶる攻撃は、単に大きい、すごいというだけでなく、足をよく使いスピードと技がミックスされたものであった。守ってはGK小野が好キーピングを見せ、速攻につないでいた。準決勝での日大、決勝での国士大を運命のいたずらともいえるようなタイムアップ寸前に1点差で破ったことは技術とか戦術とかで表現されないインカレでの大体大の盛り上りのためであ

ろう。

＜2位＞国士大

国士大は、GK矢内を軸として全員がフットワークを生かして攻防するチームである。国士舘頼みの矢内がアジア大会に参加しており帰国したのが、準々の前夕である。矢内を欠いた中京大戦では、早大を破った中京大にもたつきぎみであったが、なんとか乗り切り矢内を迎えて同大、筑波大と対戦することとなった。準決勝での筑波大戦では、激闘し1点差で逃げ切った。勝因の一つは、前半出足の筑波大のノーマークを再三にわたって阻止した矢内の活躍がまずあげられる。ナショナルプレーヤーのシュートをインカレに入るまで受け、身心を磨いていたのだから、学生の投げる球は、プレッシャーにならなかったのかもしれない。決勝では、前半、いいところがなかったが、後半追いあげタイムアップ寸前に同点にしたが、勝負を決しようとした最後の一投がアダとなり万事休した。

＜3位＞筑波大

今大会で最もDFに意欲を示したのが筑波大である。160センチ台を2人レギュラーとして加え全体的に低身長者で組む筑波大は、GKの佐藤を軸としてボールに対するプレッシャーフォローをよく行い、一試合中気を抜くことなくフットワークを使っての守りは、見事なものであった。これは3位決定戦まで、失点が、9、13、14、15であったことからもよくうかがえる。GKの佐藤も期待によく応えて、シュートをさばき178センチでも十分にGKがつとまることを示した。長身者ぞろいのチームにあって筑波大は国士大とともに、スピードと技とコンビネーションで対抗しよく健闘したといえる。

＜4位＞日本大

インカレの優勝は、誰もが日大と予想していたものである。それほど、今年の日大は、バランスよく、調子が安定しており狂うことはなかった。準決で大体大に、3決で筑波大に敗れたわけであるが「調子の安定」が、時として、たんたんと試合を運びすぎるきらいにつながり、相手が勢いに乗ったときそれを上回る勢いを出せないで、尻すぼみになる時がある。日大としては、悔やまれる大会であったろう。

＜その他＞

上位進出が期待されていた日体大は、5位決定戦で、5位になったもののついに今年、無冠のままで終った。この他、健闘したチームとして、早大を破った中京大、同志社大、法政を破った大阪経大をあげることができる。

＜女子優勝＞筑波大

2年ぶり、2度目の優勝である。前回、大阪の大会で優勝した原動力であるGK、久保、FP鈴木、山口、河原が健在であり、それに、1年生の伊賀、2年生の高木、中田を加えた布陣はスキがなく、優勝戦まで危げなく勝ち進んだ。準決勝戦の武庫川戦では、昨年同大会で負けており、関西リーグでも、秋季優勝するなど調子を上げているので接戦が予想されたが、リードオフマン山口がよくゲームをコントロールし、1年・中田や、高木のシュートがよく決まり快勝した。筑波大は、個性もあり、経験も豊かな選手が適材適所に配置されており、今回の大会では、それぞれがよく力を発揮し、戦術的なまとまりもあったので優勝したのも順当であろう。

決勝の日体大戦では、秋のリーグ戦で2分しているので、激しいゲームが予想されたが、前半こそ同点であったものの、後半、ロング、ポスト、サイドとバランスよく得点を重ね、後半中ば、勝負は決したの感があった。

＜2位＞日体大

決勝で筑波大と対戦するまでは、相手を寄せつけず、一方的に勝利を得ていたが、筑波大戦では動きに固さが見られ、準優勝に甘んじた。

優秀なGK高倉を有する日体大は、高いディフェンス網により、ロングシュートを打たせ速攻で勝負するチームであった。シュート力の無いチームや、攻撃が単調なチームには圧倒的な力を発揮した。特にGK高倉の正確なパスアウトはすばらしいものがあった。

セット攻撃では、小口をコントロールタワーにして前ブロックから長身の天野、吉岡にロングシュートを打たせるパターンと、サイド上りのローリングから機を見てのポストプレーパターンが主であった。

またディフェンスでは、速攻を防ぐディフェンスシステムにすばらしいものがあった。GKのパスアウトを遅らせながら、センターライン附近で2・3人がマンツーマンぎみでつきカットをねらうというものであった。

＜3位＞武庫川女子大

素速いカットイン、ローリングを繰り返しディフェンスのチェンジミスをねらい、ディフェンスの脚が止ったら、神並、富田、前田のロング陣が打っていくという戦術で3位になった。

武庫川女子大のすばらしさは、良く足の動くディフェンスとディフェンスからの速攻にあった。特に速攻は全員の追いかけから、カットインローリングにもっていくプレーに迫力が感じられた。

＜4位＞大阪体大

春季リーグ、西日本を制覇し期待されたが、もう一つ元気がなく4位に甘んじた。

センタースリーからずらして攻撃しようとするタイプのチームであるが、個々のプレーヤーがボールを持ちすぎたり、シュートに結びつける最終場面のプレーが弱く攻撃が単調になることが多かった。シュート力のある選手やスピード、テクニックのある選手が多く将来楽しみなチームであるが、今大会では、それらの選手をまとめるコントロールタワーの不調が大きかった。

上位チームの身長について　(cm)

チーム名(順位)		GK ゴールキーパー	FP 平均(標準偏差)	FP 最大	FP 最小
男子	大体大(1)	185	180.0(3.8)	184	175
男子	国士舘大(2)	189	174.5(1.5)	177	173
男子	筑波大(3)	178	173.0(4.3)	178	167
男子	日本大(4)	184	179.6(5.6)	184	170
男子	日体大(5)	184	180.5(5.6)	188	173
男子	全体	184(3.5)	177.4(5.3)	—	—
女子	筑波大(1)	167	163.1(4.6)	173	159
女子	日体大(2)	165	164.0(5.8)	172	152
女子	武庫川大(3)	163	160.4(4.2)	168	156
女子	大体大(4)	165	162.9(4.6)	172	158
女子	全体	165(1.4)	162.5(5.0)	—	—

上位チームの先発メンバーの平均値と標準偏差値

くらし、ひろげるジャスコのカード





ファッションから食品まで
サインひとつでお買物———。
ご入会手続きも簡単です。お気軽にお申込みください。

会員募集中

お支払いもいろいろ
- 月々のお支払いがラクな **リボルビング払い**
- 手数料なしのおトクな **一回払い**
- お求めはいま、お支払いは **ボーナス一括払い**

- 一部地域により取扱っていない場合もございます。

お申し込み、お問い合せは、ジャスコ各店サービスカウンター又は、販売員におたずねください。



molten



MT3 検定球3号
●検定球●天然皮革



ごらんください・独特のリブ形状とパネル間段差。この"32面体ノンスリップ構造"で確かな手がかりをつくりだしたモルテンハンドボールは、さらにナイロン糸巻構造をほどこし、すばらしい耐久性、真球性をも実現して、日本ではじめて国際ハンドボール連盟(I.H.F.)公認を獲得。ハンドボーラーの圧倒的な人気と信頼を集めています。

●日本ハンドボール協会検定球(J.H.A.)　●国際ハンドボール連盟公認球(I.H.F.)

「手がかり」が、見えた！

独自の32面体
ノンスリップ構造で、圧倒的人気を誇るモルテンハンドボール

モルテン ハンドボール

モルテンゴム工業株式会社
本社　広島市西区横川新町1番8号 〒733
☎(082)292−1381(代)

第10回日韓ジュニア交流

男女とも日本勢は完敗

第10回日韓ジュニア交流は、11月3日より7日までの5日間、男子・愛知高校、女子・市邨学園高校が韓国に遠征、各2試合ずつを戦ったが、韓国勢は強く、4試合とも日本勢の完敗に終った。

＜総評＞　嶋田新太郎

日韓親善試合以来、日韓高校スポーツ交流大会、日韓親善ハンドボール大会、そして今回のジュニア交流を含め16回40試合8勝28敗4分、女子は9回18試合3勝15敗と大きく水のあいたことは事実である。勿論、日本の代表が真の代表であったかどうかは論議されるところであろうが、敗れたことはどうしようもないことであろう。

今、韓国の小学校が松ヤニを用いて素晴らしいプレーを演じている。中・高校と現在日本で使用している国際球を採用し、松ヤニを使ってテクニックとボールさばきに一段と磨きがかかっている点からいって一日の長ありと判断しなければならない。

精神的には「お国のため」であり打倒日本である。

それに控え、わが国の高校生にはそのかけらすらない。今の現状としてこれをどうする術もないように思う。ただ手先だけの器用さと得点の満足感だけが日本の技術を高めているに過ぎないと思う。

今後の課題としては、

①ボールの問題

②松ヤニの使用について

当面考えられることは、この2点にしぼられると思う。精神的なものは今どうこうするところまでにはいかないであろう。

＜第1戦＞

○女子

韓国 東邦女高 19（10－5, 9－8）13 日本 市邨学園

【日本】	得		【韓国】	得
平野	0	GK	柳貞淑	0
酒巻	0	GK	崔仁淑	0
近藤	8	FP	李啓貞	4
倉地	0	FP	田美淑	1
安東	0	FP	金英植	0
松村	1	FP	金仁姫	0
関	0	FP	崔仁淑	0
服部	2	FP	高貞沃	8
押水	1	FP	都真淑	4
坂倉	0	FP	由喜変	1
堀田	1	FP	張韓福	1
木村	0	FP	金美英	0
	13	（審・高朴）		19

○…始めから押し気味で試合が展開したが、再三のノーマークシュートがはずれて得点にならず、苦戦を強いられることになった。市邨の近藤が一人気を吐いて5対10で後半に入りシーソーゲームを演じたが、前半の5点差が重く挽回することができなかった。

近藤一人が気を吐いた戦いともいえよう。

ノーマークシュートが入らない理由は、緊張と体育館いっぱいの観衆の声と松ヤニの調整で上ずったシュートが原因と思われる。

一方、東邦女子高は創立3年目の大田市の女子高で、技術的にはそれ程でないように思われるチームであるが、持ち前のジャンプショットとよく回るボールさばきが勝因であろう。

○男子

韓国 東亜高 29（16－4, 13－6）10 日本 愛知高

【日本】	得		【韓国】	得
久野	0	GK	金奉宇	0
野田	0	GK	金海撓	0
楢田	3	FP	朴永坤	5
岡田	2	FP	康彰元	0
堀江	1	FP	辛栄揚	7
濱田	2	FP	黄約邪	6
岡本	0	FP	辛海華	3
大谷	2	FP	韓永吉	5
佐竹	0	FP	朴章旭	0
伊藤	0	FP	金彩奎	3
服部	0	FP	朱洪大	0
		FP	朴點九	0
	10	（審・黄沈）		29

○…日韓戦ではおなじみのチームであるが、愛知のエース・岡田が今一つ調子がなく、東亜が着実に得点するのに追いつけなかった。後半も前半と同じようにじり貧のゲーム展開となり敗れた。

もともと愛知のペースは、いつの間にか追いついて追い抜くという展開だが、今一つ決まらず、ほとんどポストの上をはるかに越えていったシュートが原因か。

＜第2戦＞

○女子

韓国 貞信女高 24（16－5, 8－5）10 日本 市邨学園

【日本】	得		【韓国】	得
平野	0	GK	黄恵淑	0
酒巻	0	GK	金英玉	0
近藤	3	FP	成京花	4
安東	0	FP	金俊美	6
倉地	0	FP	金京純	6
松村	3	FP	金順玉	5
関	0	FP	卜憲順	0
服部	1	FP	李美子	2
押水	2	FP	金美恵	0
坂倉	0	FP	朴基愛	0
堀田	1	FP	尹善姫	1
木村	0	FP	尹秀卿	0
	10	（審・金成）		24

○…貞信女高は成京花、金俊美のナショナルメンバーを加えての布陣で、昨年東海選抜で選ばれて同チームと対戦経験のある市邨の近藤がどう戦うかが焦点となった。

市邨は前半、第1戦と同じようにノーマークシュートが決まらず勿論GKの黄の好守に阻まれ、5対8で前半終了。後半に入って貞信の回転がよくなり、上からサイドからと申し分のない得点をあげた。一方、市邨はディフェンスが下がると上から、出るとポストから前後左右に揺さぶられ、得点差を大きくしてしまった。

後半の奮起を期待された市邨だったが、近藤のシュートが今一つ冴えず、終始防御にまわる試合で終った。

○男子

韓国 永東高 32（17－11, 15－12）23 日本 愛知高

【日本】	得		【韓国】	得
久野	0	GK	尹泰一	0
野田	0	GK	黄仁一	0
楢田	2	FP	洪成旭	6
岡田	9	FP	金良洙	0
堀江	3	FP	申相華	4
濱田	1	FP	延漢京	5
岡本	0	FP	崔炅燕	2
大谷	4	FP	金享国	5
佐竹	4	FP	李鐘庚	2
伊藤	0	FP	朴英大	3
服部	0	FP	柳昌永	2
		FP	金振植	3
	23	（審・高朴）		32

○…立ち上がり愛知が点先取するとすぐ永東が返し、激しいテンポの早い試合となった。

愛知はよくボールが回り、第1戦とは違った滑らかなボールさばきで応戦する。永東も鋭い突っ込みでペナルティーを加えて加点、結局12対15で折り返し、後半ローリングパスをカットされたり、パスミスが目立ち、点差は開く一方となったが、馴れないボールと松ヤニの障害を越えて愛知はよく健闘した。

愛知の岡田がよく決めたが、今一つボールを越えるシュートが多かったように思う。

各地学生リーグ戦

関西学生秋季リーグ戦

＜男子1部＞

同志社大 21-18 大阪体育大
大阪体育大 28-16 大阪経済大
大阪体育大 31-9 近畿大
大阪体育大 40-10 京都産業大
大阪体育大 28-15 関西学院大
大阪体育大 28-17 大阪大
大阪経済大 20-19 同志社大
大阪経済大 28-16 近畿大
大阪経済大 23-21 京都産業大
大阪経済大 30-25 関西学院大
大阪大 24-18 大阪経済大
近畿大 21-20 同志社大
同志社大 23-20 京都産業大
同志社大 22-14 関西学院大
同志社大 30-17 大阪大
大阪大 27-25 近畿大
京都産業大 29-27 大阪大
大阪大 23-20 関西学院大
京都産業大 21-21 近畿大
京都産業大 24-24 関西学院大
関西学院大 25-24 近畿大

（順位）①大阪体育大(5勝1敗)②大阪経済大（4勝2敗）③同志社大（4勝2敗）④大阪大（3勝3敗）⑤京都産業大（1勝2敗2分）⑥関西学院大(1勝4敗1分)⑦近畿大（1勝4敗1分）

＜男子2部＞

関西大 23-15 神戸大
天理大 24-19 関西大
関西大 22-19 大阪学院大
関西大 24-15 京都大
関西大 25-19 京都教育大
関西大 23-9 大阪府立大
京都教育大 15-14 神戸大
京都教育大 28-17 天理大
京都教育大 28-12 大阪学院大
京都教育大 21-17 京都大
京都教育大 18-18 大阪府立大
天理大 18-18 神戸大
大阪学院大 22-19 天理大
天理大 36-18 京都大
天理大 30-18 大阪府立大
大阪学院大 21-18 神戸大
大阪学院大 19-17 京都大
大阪府立大 15-14 大阪学院大
神戸大 23-16 大阪府立大
大阪府立大 21-19 京都大
京都大 18-16 神戸大

（順位）①関西大（5勝1敗）②京都教育大（4勝1敗1分）③天理大（3勝2敗1分）④大阪学院大（3勝3敗）⑤大阪府立大（2勝3敗1分）⑥神戸大（1勝4敗1分）⑦京都大（1勝5敗）

＜男子3部＞

奈良教育大 25-19 大阪市立大
立命館大 29-26 奈良教育大
奈良教育大 18-14 和歌山大
奈良教育大 22-21 大阪教育大
奈良教育大 26-22 追手門大
奈良教育大 35-19 大阪工業大
和歌山大 14-14 大阪市立大
和歌山大 28-20 立命館大
和歌山大 24-13 大阪教育大
和歌山大 18-14 追手門大
和歌山大 30-11 大阪工業大
大阪市立大 30-19 立命館大
大阪市立大 22-21 大阪教育大
大阪市立大 24-18 追手門大
大阪市立大 28-16 大阪工業大
追手門大 23-22 立命館大
追手門大 25-23 大阪教育大
追手門大 26-16 大阪工業大
立命館大 24-13 大阪教育大
立命館大 35-20 大阪工業大
大阪工業大 31-14 大阪教育大

（順位）①奈良教育大(5勝1敗)②和歌山大（4勝1敗1分）③大阪市立大（4勝1敗1分）④追手門学院大（3勝3敗）⑤立命館大（3勝3敗）⑥大阪教育大（1勝5敗）⑦大阪工業大（6敗＝4部転落）

＜男子4部＞

滋賀大 24-12 桃山学院大
滋賀大 20-15 竜谷大
滋賀大 12-10 甲南大
滋賀大 25-11 仏教大
滋賀大 18-16 関西外語大
滋賀大 22-15 神戸学院大
仏教大 22-16 桃山学院大
仏教大 19-18 竜谷大
仏教大 17-14 甲南大
仏教大 21-17 関西外語大
仏教大 28-23 神戸学院大
関西外語大 15-14 桃山学院大
関西外語大 19-17 竜谷大
甲南大 23-12 関西外語大
関西外語大 27-12 神戸学院大
桃山学院大 29-22 竜谷大
桃山学院大 26-25 甲南大
桃山学院大 28-20 神戸学院大
甲南大 18-18 竜谷大
甲南大 26-12 神戸学院大
竜谷大 25-17 神戸学院大

（順位）①滋賀大（6勝＝3部昇格）②仏教大（5勝1敗）③関西外語大（3勝3敗）④桃山学院大（3勝3敗）⑤甲南大（2勝3敗1分）⑥竜谷大（1勝4敗1分）⑦神戸学院大（6敗＝5部転落）

＜男子5部＞

▽Aグループ

京都外語大 20-14 大阪薬科大
京都外語大 30-21 神戸商船大
京都外語大 26-14 大阪歯科大
京都外語大 25-11 京都府立大
大阪薬科大 31-11 神戸商船大
大阪薬科大 25-9 大阪歯科大
大阪薬科大 28-14 京都府立大
大阪歯科大 19-18 神戸商船大
大阪歯科大 12-10 京都府立大
神戸商船大 24-13 京都府立大

▽Bグループ

京都工芸大 28-23 大阪外語大
京都工芸大 21-15 姫路工業大
京都工芸大 23-13 奈良大
京都工芸大 26-17 八代学院大
八代学院大 26-25 大阪外語大
八代学院大 24-13 姫路工業大
八代学院大 26-20 奈良大
大阪外語大 21-13 姫路工業大
大阪外語大 20-19 奈良大
奈良大 12-0 姫路工業大

▽順位決定戦

京都外語大 19-18 京都外語大
八代学院大 25-22 大阪薬科大
大阪外語大 12-0 大阪歯科大
奈良大 12-0 神戸商船大
京都府立大 20-7 姫路工業大

（順位）①京都外語大（4部昇格）②京都工芸繊維大③八代学院大④大阪薬科大⑤大阪外語大⑥大阪歯科大⑦奈良大⑧神戸商船大⑨京都府立大⑩姫路工業大

＜女子1部＞

武庫川女大 13-11 大阪体育大
武庫川女大 17-10 大阪教育大
武庫川女大 35-6 京都教育大
武庫川女大 30-6 成蹊女短大
武庫川女大 39-4 和歌山大

武庫川女大	40－6	天理大
大阪体育大	33－13	大阪教育大
大阪体育大	39－6	京都教育大
大阪体育大	39－8	成蹊女短大
大阪体育大	52－3	和歌山大
大阪体育大	41－8	天理大
大阪教育大	27－13	京都教育大
大阪教育大	22－10	成蹊女短大
大阪教育大	30－5	和歌山大
大阪教育大	23－10	天理大
成蹊女短大	14－18	京都教育大
成蹊女短大	24－13	和歌山大
成蹊女短大	23－15	天理大
京都教育大	9－8	和歌山大
京都教育大	11－8	天理大
天理大	17－12	和歌山大

(順位)①武庫川大(6勝)②大阪体育大(5勝1敗)③大阪教育大(4勝2敗)④大阪成蹊女短大(3勝3敗)⑤京都教育大(2勝4敗)⑥天理大(1勝5敗)⑦和歌山大(6敗)

<女子2部>

滋賀大	12－6	関西学院大
滋賀大	13－2	大阪薬科大
滋賀大	12－7	奈良女大
滋賀大	14－9	関西大
滋賀大	9－9	関西外語大
滋賀大	13－5	京都女大
関西外語大	10－5	関西学院大
関西外語大	12－8	大阪薬科大
奈良女大	10－7	関西外語大
関西外語大	15－10	関西大
関西外語大	15－5	京都女大
大阪薬科大	6－5	関西学院大
大阪薬科大	14－4	奈良女大
大阪薬科大	8－7	関西大
大阪薬科大	11－7	京都女大
奈良女大	12－12	関西学院大
関西大	14－10	奈良女大
奈良女大	12－8	京都女大
京都女大	11－10	関西学院大
京都女大	7－7	関西大
関西学院大	11－6	関西大

(順位)①滋賀大(5勝1分)②関西外語大(4勝1敗1分)③大阪薬科大(4勝2敗)④奈良女大(2勝3敗1分)⑤京都女大(1勝4敗1分)⑥関西学院大(1勝4敗1分)⑦関西大(1勝4敗1分)

<女子3部>

大谷女大	8－6	園田学園大
大谷女大	15－3	大谷女大
仏教大	12－6	大阪外語大
大谷女大	3－3	京都府立大
大谷女大	8－5	神戸大
大谷女大	13－5	奈良教育大
大谷女大	8－3	追手門大
大谷女大	12－0	親和女大
園田学園大	12－6	仏教大
大阪外語大	22－13	園田学園大
園田学園大	8－7	京都府立大
園田学園大	11－10	神戸大
園田学園大	11－7	奈良教育大
園田学園大	16－8	追手門大
園田学園大	15－5	親和女大
大阪外語大	12－11	仏教大
京都府立大	8－6	大阪外語大
大阪外語大	11－8	神戸大
大阪外語大	17－6	奈良教育大
追手門大	10－9	大阪外語大
大阪外語大	15－10	親和女大
神戸大	12－6	仏教大
神戸大	11－7	京都府立大
神戸大	14－6	奈良教育大
神戸大	17－4	追手門大
神戸大	18－6	親和女大
仏教大	13－7	京都府立大
仏教大	14－5	奈良教育大
仏教大	17－6	追手門大
仏教大	17－5	親和女大
京都府立大	14－6	奈良教育大
京都府立大	16－10	追手門大
京都府立大	13－13	親和女大
奈良教育大	9－8	追手門大
奈良教育大	12－0	親和女大
追手門大	12－4	親和女大

(順位)①大谷女大(6勝1敗1分)②園田学園女大(6勝2敗)③大阪外語大(5勝3敗)4神戸大(5勝3敗)⑤仏教大(5勝3敗)⑥京都府立大(3勝3敗2分)⑦奈良教育大(2勝6敗)⑧追手門学院大(2勝6敗)⑨親和女大(1分7敗)

東北学生秋季リーグ戦

<男子1部>

福島大	28－26	宮城教育大
福島大	25－16	東北大
福島大	28－20	東北学院大
福島大	17－16	岩手大
福島大	24－21	仙台大
仙台大	21－19	宮城教育大
仙台大	16－15	東北大
仙台大	22－18	東北学院大
仙台大	21－17	岩手大
岩手大	32－23	宮城教育大
岩手大	23－23	東北学院大
岩手大	27－23	東北大
東北学院大	24－21	宮城教育大
東北学院大	25－17	東北大
東北大	24－23	宮城教育大

(順位)①福島大(5勝)②仙台大(4勝1敗)③岩手大(2勝2敗1分)④東北学院大(2勝2敗1分)⑤東北大(1勝4敗)⑥宮城教育大(5敗)

<男子2部>

山形大	33－13	東北学院大工学部
山形大	44－15	日大工学部
山形大	26－16	東北工業大
東北工業大	25－10	東北学院大工学部
東北工業大	26－17	日大工学部
東北学院大工学部	25－25	日大工学部

(順位)①山形大(3勝)②東北工業大(2勝1敗)③東北学院大工学部(2敗1分)④日大工学部(2敗1分)

<女子>

岩手大	12－3	宮城教育大
岩手大	13－3	福島大
福島大	6－3	宮城教育大

(順位)①岩手大(2勝)②福島大(1勝1敗)③宮城教育大(2敗)

各地の記録

◆第32回茨城県総合選手権中学校の部（8月26、27日）

＜男子＞

▽1回戦
水海道　14－12　石岡B
古河一　16－9　利根
麻生一A　14－2　伊奈
茎崎B　19－9　出島北
結城　15－11　麻生一B
府中　22－11　神栖二
石岡A　31－12　土浦三

▽2回戦
茎崎A　21－7　水海道
古河一　15－10　麻生一A
茎崎B　15－5　結城
府中　9－7　石岡A

▽準決勝
茎崎A　27－11　古河一
府中　23－10　茎崎B

▽決勝
府中　17－9　茎崎A

＜女子＞

▽1回戦
北浦　19－0　茎崎
伊奈B　23－1　利根

▽2回戦
石岡　13－9　岩瀬東
出島北　14－13　結城
伊奈A　22－6　北浦
伊奈B　8－4　麻生

▽準決勝
伊奈A　20－10　石岡
伊奈B　15－7　出島北

▽決勝
伊奈A　11－9　伊奈B

◆第18回東海実業団選手権（9月5、12日）

＜男子＞

▽1回戦
本田技研 爽風会　21－16　豊田合成
サンケミカル　28－21　日本碍子

▽2回戦
トヨタ自動車　40－7　日本耐酸壜
本田技研 爽風会　26－21　トヨタ車体
新日鉄名古屋　29－11　サンケミカル
豊田自動織機　32－8　三洋電機

▽3回戦
トヨタ自動車　30－19　本田技研 爽風会
新日鉄名古屋　17－16　豊田自動織機

▽準決勝
大同特殊鋼　29（12－8、17－5）13　トヨタ自動車
本田技研鈴鹿　26（9－5、17－5）10　新日鉄名古屋

▽3位決定戦
新日鉄名古屋　22（11－7、11－11）18　トヨタ自動車

▽決勝
本田技研鈴鹿　20（11－8、9－9）17　大同特殊鋼

＜女子＞
ジャスコ　12（7－4、5－6）10　ブラザー工業

◆第31回奈良県秋季大会（一般の部）（9月15日）

＜男子＞
生駒ク　33（15－4、18－5）9　畝傍ク
生駒ク　23（10－9、13－13）22　奈良教職員
奈良教職員　25（9－9、16－7）16　畝傍ク
（順位）①生駒ク②奈良教職員③畝傍ク

＜女子＞
生駒ク　23（10－3、13－3）6　生駒高ク
（順位）①生駒ク②生駒高ク

◆第33回三重県総合選手権（9月5、19、23日）

＜男子＞

▽1回戦
四日市南高　20－9　高田高
鵜ノ森クA　37－17　海星高
津工A　22－13　四日市西高B
亀山高B　19－12　愛球会
四日市中央工B　21－17　鈴鹿高専B
鈴鹿高専A　12－0　皇学館大
三重教員B　44－7　桑名西高
三菱油化　19－12　四日市高
鵜ノ森クB　28－20　中央ク
鳥羽商船A　24－10　津工B
四日市西高A　24－9　桑名高A

▽2回戦
三重大　19－14　九華ク
鷲球会　19－11　七和ク
尾鷲ク　27－21　四日市工B
三重教員A　25－15　鳥羽商船B
四日市南高　18－12　日生学園第二A
鵜ノ森クA　21－12　尾鷲高B
セブンスターズ　31－9　朝明高
鳥羽商船A　13－10　尾鷲高A
海星高OB　19－12　鈴鹿高専A
桑名工A　23－13　亀山高
四日市工A　26－11　四日市中央工B
桑名高B　23－6　津工A
三重教員B　43－15　四日市中央工A
鵜ノ森クB　27－15　日生学園第二B
四日市西高　21－8　津高
三菱油化　28－15　桑名工A

▽3回戦
三重教員A　23－19　四日市南高
桑名高B　12－0　鵜ノ森クA
三重大　30－15　桑名工B
四日市工A　12－0　鷲球会
尾鷲ク　12－0　海星高OB
三重教員B　27－18　三菱油化
セブンスターズ　30－14　鵜ノ森クB
四日市西A　12－0　鳥羽商船

▽4回戦
三重教員A　16－12　桑名高B
四日市工A　13－7　三重大
三重教員B　20－19　尾鷲ク

▽準々決勝
セブンスターズ　22－11　四日市西A
三重教員A　25（15－10、10－10）25　四日市工A

▽準決勝（大会規定により本田技研、爽風会の2チームは準決勝より出場）
セブンスターズ　31（14－7、17－10）17　三重教員B
本田技研　18（7－5、11－9）14　本田技研爽風会

▽決勝
セブンスターズ　32（16－10、16－12）22　三重教員A
本田技研　26（12－8、14－8）16　セブンスターズ

＜女子＞

▽1回戦
暁高OGA　12－11　尾鷲高A
泗商B　12－8　亀山高
津女子高A　22－3　四日市高
桑名高OG　12－0　津西高
津女子高B　17－7　四日市西高
尾鷲ク　14－13　暁高OGB
上野高　15－9　泗商A
暁高B　26－4　三重大
むつみケ丘ク　20－1　桑名高
尾鷲高B　18－5　亀山高OG
暁高A　30－1　泗商OG

▽2回戦
泗商B　23－5　暁高OGA
津女子高A　16－7　桑名高OG
津女子高B　14－5　尾鷲ク
暁高B　9－7　上野高
尾鷲高B　9－7　むつみケ丘ク
あゆみク　15－1　暁高A

▽準々決勝
津女子高A 15（10−6、5−5）11 泗商B
暁高B 21（7−6、14−7）13 津女子高B
あゆみク 22（11−2、11−1）3 尾鷲高B
▽準決勝（大会規定によりジャスコは準決勝より出場）
ジャスコ 25（10−3、15−1）4 あゆみク
暁高B 20（10−10、10−4）14 津女子高B
▽決勝
ジャスコ 33（19−7、14−3）10 暁高B

◆第35回奈良県高校総体
（9月26日）
＜男子＞
○Aブロック
▽1回戦
奈良工 16−13 一条
添上 26−10 斑鳩
桜井商 11−5 広陵
▽準決勝
奈良工 17（9−8、8−8）16 畝傍
添上 33（13−4、20−3）7 桜井商
▽決勝
添上 23（12−6、11−6）12 奈良工
○Bブロック
▽1回戦
橿原 15−13 天理
生駒 14−7 正強
奈良 11−5 郡山
▽準決勝
生駒 18（8−12、10−3）15 橿原
奈良 16（7−3、9−5）8 十津川
▽決勝
生駒 9（5−3、4−4）7 奈良
＜女子＞
○Aブロック
▽1回戦
郡山 10−9 生駒
短大付 14−2 橿原
▽決勝
短大付 15（7−5、8−1）6 郡山
○Bブロック
▽1回戦
添上 26−7 十津川
白藤 18−5 一条
▽決勝
添上 27（13−2、14−0）2 白藤

◆鳥取県高校新人戦
（9月26、27日）
＜男子＞
▽1回戦
境 29−8 倉吉工
倉吉東 20−14 米子北
米子東 14−10 米子西
境工 34−7 工専
▽準決勝
境 17（6−6、11−7）13 倉吉東
米子東 14（6−5、8−7）12 境工
▽決勝
米子東 13（7−2、6−1）3 境
＜女子＞
▽1回戦
境 21−1 倉吉産
米子南 21−14 米子東
▽準決勝
米子北 11（2−0、1−2、3−4、5−4）10 境
米子南 14（5−5、9−2）7 倉吉西
▽決勝
米子北 12（5−5、7−6）11 米子南

◆群馬県中学校新人大会
（10月17、24日）
＜男子＞
▽1回戦
甘楽三中 21−8 前橋東中
▽2回戦
甘楽三中 30−18 相生中
富岡中 25−3 下西中
富岡東中 25−4 下東中
甘楽二中 25−8 前橋三中
▽準決勝
富岡中 21（11−5、10−11）16 甘楽三中
富岡東中 12（7−3、5−5）8 甘楽二中
▽決勝
富岡東中 20（13−7、7−10）17 富岡中
＜女子＞
▽1回戦
富岡東中 11−9 太田休泊中
▽準決勝
塚沢中 13（5−4、8−4）8 富岡東中
高南中 22（12−4、10−2）6 下仁田西中
▽決勝
高南中 13（8−5、5−7）12 塚沢中

◆第36回三重県民体育大会
（10月30、31日）
＜少年男子＞
▽1回戦
亀山市 18−5 久居市
▽2回戦
鈴鹿市 13−8 津市
尾鷲市 14−7 三重郡
桑名市 18−3 鳥羽市
四日市市 19−3 亀山市
▽準決勝
四日市市 22（11−5、11−6）11 鈴鹿市
桑名市 16（8−4、8−7）11 尾鷲市
▽決勝
四日市市 15（5−4、10−3）7 桑名市
＜少年女子＞
▽1回戦
三重郡 16−4 亀山市
津市 9−6 尾鷲市
▽準決勝
四日市市 13（5−7、8−4）11 三重郡
津市 10（6−2、4−4）6 鈴鹿市
▽決勝
四日市市 10（4−2、6−3）5 津市
＜成年男子＞
▽1回戦
尾鷲市 29−3 伊勢市
津市 20−17 久居市
四日市市 18−12 三重郡
▽準決勝
鈴鹿市 28（16−6、12−8）14 尾鷲市
四日市市 27（15−4、12−6）10 津市
▽決勝
鈴鹿市 26（15−4、11−8）12 四日市市
＜成年女子＞
▽1回戦
鈴鹿市 9−4 三重郡
▽準決勝
尾鷲市 8（4−2、4−3）5 津市
四日市市 11（9−5、2−6）11 鈴鹿市
2 PTC 1
▽決勝
四日市市 10（5−5、5−1）6 尾鷲市

◆第32回茨城県総合選手権大会
（10月30、31日）
＜男子＞
▽1回戦
大和ク 17−12 勝田高
麻生高 21−15 白衛隊古河
▽2回戦
筑波振球会 29−9 大和ク
筑波大 36−5 太田一高

茨城大 36－10 土浦三高OB
自衛隊勝田 25－19 笠間高
勝田工高 14－12 水戸一高
日本原研 23－18 水海道一高
動燃東海 17－16 八郷高
茨苑ク 32－19 麻生高

▽準々決勝
筑波大 27－24 筑波振球会
茨城大 21－14 自衛隊勝田
日本原研 30－15 勝田工高
茨苑ク 27－12 動燃東海

▽準決勝
茨城大 22（10－9, 12－10）19 筑波大
茨苑ク 20（9－9, 11－8）17 日本原研

▽決勝
茨苑ク 21（12－9, 9－10）19 茨城大

＜女子＞
▽1回戦
水海道三高 17－6 笠間高

▽2回戦
水海道二高 14－9 茨城大
潮来高 18－10 友部高
竜ケ崎二高 17－9 太田二高
結城二高 18－13 高萩高
八郷高 8－5 土浦二高
鉾田二高 8－7 西峯ク
茨城教員 31－7 筑波ラパーズ
麻生高 21－10 潮来ク

▽準々決勝
水海道二高 20－3 潮来高
竜ケ崎二高 12－10 結城二高
鉾田二高 14－6 八郷高
麻生高 キケン 茨城教員

▽準決勝
水海道二高 28（14－2, 14－1）3 竜ケ崎二高
麻生高 22（14－8, 8－3）11 鉾田二高

▽決勝
水海道二高 15（7－1, 8－3）4 麻生高

◆第34回長崎県民体育大会
（10月31日）

＜男子の部＞
佐世保 41（22－14, 19－11）25 長崎
南高 26（10－7, 16－5）12 大村

▽決勝
南高 26（15－9, 11－13）22 佐世保

＜女子の部＞
島原 13（6－7, 7－1）8 佐世保
島原 20（13－4, 7－4）8 長崎
佐世保 11（5－5, 6－3）8 長崎

（順位）①島原②佐世保③長崎

◆香川県高校新人大会
（10月31日、11月3日）

＜男子＞
▽1回戦
高松工芸 24－14 高松西
坂出工 12－0 寒川
藤井 14－12 多度津工
高松 19－10 高松一

▽2回戦
高松商 20－11 高松工芸
坂出工 28－8 三本松
丸亀 21－9 藤井
高松南 20－13 高松

▽準決勝
坂出工 13－9 高松商
高松南 15－10 丸亀

▽決勝
高松南 18（6－11, 12－4）15 坂出工

＜女子＞
▽1回戦
高松南 19－7 丸亀
高松西 9－8 三本松
高松 9－2 高松東

▽準決勝
高松南 12－10 高松一
高松 16－2 高松西

▽決勝
高松 10（5－2, 5－2）4 高松南

◆第9回千葉県総合選手権大会
（10月30、31日、11月3日）

＜一般男子＞
▽1回戦
市川高 24－16 日産石油
市立柏高 23－9 国分高
清水ク 12－0 東電千葉
佐原ク 35－10 千葉明徳
若潮クB 12－0 木更津ク
四街道高 30－5 鶴舞商高
我孫子高 19－7 市立松戸高
出光千葉 22－19 上総高
小金ク 40－11 若松高A
東邦ク 21－13 千葉南高
佐原高 23－10 木更津高
三井石油 33－11 東邦高
鶴舞ク 31－11 泉高
道野辺ク 28－7 船橋法典高
若松高B 12－0 麗沢大
若潮クA 37－18 明徳ク

▽2回戦
市川高 31－7 市川柏高
佐原ク 19－12 清水ク
若潮クB 36－18 四街道高
出光千葉 24－21 我孫子高
東邦ク 21－19 小金ク
三井石油 22－13 佐原高
鶴舞ク 24－11 道野辺ク
若潮クA 33－19 若松高B

▽3回戦
市川高 15－9 佐原ク
若潮クB 21－20 出光千葉
三井石油 32－23 東邦ク
鶴舞ク 25－18 若潮クA

▽準々決勝
市川高 16－8 若潮クB

▽準決勝
三井石油 32（14－10, 18－6）16 鶴舞ク
千葉教員 17（11－6, 6－4）10 市川高

▽決勝
千葉教員 29（13－9, 16－7）16 三井石油

＜一般女子＞
▽1回戦
朝顔ク 22－6 四街道高
佐原女高 11－5 明徳高
佐原メッツ 12－6 市立柏高
佐原高 15－11 東邦高

▽2回戦
千葉ク 28－5 朝顔ク
佐原女高 9－8 東邦ク
和洋ク 7－6 佐原メッツ
水郷ク 9－8 佐原高

▽準決勝
千葉ク 15（9－1, 6－8）9 佐原女高
水郷ク 14（7－3, 7－2）5 和洋ク

▽決勝
千葉ク 23（11－4, 12－5）9 水郷ク

＜中学男子＞
▽1回戦
白井中 18－5 河原塚中
市川中 9－7 流山南部中
逆井中 13－10 秀明八千代中
東邦中 14－5 花園中
福栄中B 17－12 佐原中

▽2回戦
福栄中A 17－8 白井中
市川中 13－8 千城台南中
逆井中 13－8 東邦中
柏三中 12－10 福栄中B

▽準決勝
福栄中A 21（9－2, 12－5）7 市川中
逆井中 10（6－4, 4－5）9 柏三中

▽決勝
福栄中A 14（4－0, 10－3）3 逆井中

＜中学女子＞
▽1回戦
白井中 30－2 柏三中
花園中 9－7 流山南部中
東邦中 10－5 市川二中

福栄中 11－2 佐原二中

▽準決勝

白井中 17（7－2、10－0）2 花園中

福栄中 13（6－0、7－6）6 東邦中

▽決勝

白井中 21（13－0、8－3）3 福栄中

◆第20回群馬県民体育大会（10月31、11月7日）

〈男子〉

▽1回戦

富岡市 28－19 藤岡市

▽準決勝

富岡市 23（9－15、14－6）21 前橋市

桐生市 17（12－7、5－7）14 沼田市

▽決勝

富岡市 28（11－10、17－13）23 桐生市

〈女子〉

▽準決勝

高崎市 22（9－7、13－7）14 前橋市

富岡市 17（9－2、8－7）9 桐生市

▽決勝

高崎市 17（8－7、5－6、2－2、2－2、PTC 4－3）17 富岡市

◆第1回愛知県中学生大会（10月31日、11月3、7日）

〈男子〉

▽1回戦

知立南 16－14 神守

南陵 17－13 平和

御幸山 17－15 大塚

豊国 21－18 亀崎

▽2回戦

明豊 20－16 知立南

春日井中部 17－16 南陵

御幸山 20－14 美川

豊国 17－11 犬山

▽準決勝

明豊 20（11－7、9－10）17 春日井中部

御幸山 19（9－8、5－6、2－2、3－1）17 豊国

▽決勝

御幸山 17（7－8、10－8）16 明豊

〈女子〉

▽1回戦

尾西一 12－5 葵

春日井中部 20－7 大治

豊国 9－3 五並

六ツ美 11－5 明豊

▽2回戦

汐路 23－7 尾西一

春日井中部 17－9 大塚

豊国 13－7 青山

六ツ美 15－6 岩倉南

▽準決勝

汐路 18（8－5、10－5）10 春日井中部

六ツ美 12（9－5、3－4）9 豊国

▽決勝

汐路 9（5－3、4－5）8 六ツ美

◆第1回長崎県中学校新人大会（11月7日）

▽男子の部

大瀬戸 18（6－4、12－7）11 時津

時津 11（4－3、7－5）8 大野

大瀬戸 10（3－7、7－1）8 大野

（順位）①大瀬戸中②時津中③大野中

▽1年生の部

大瀬戸 7（4－1、3－4）5 時津

大瀬戸 13（6－2、7－3）5 大野

時津 8（3－3、5－5）8 大野

（順位）①大瀬戸中②時津中③大野中

◆第37回岡山県高校新人大会（11月6、13、14日）

〈男子〉

▽1回戦

古城池 17－7 矢掛

水島工 10－10 落合（PTC 3－2）

倉敷南 27－14 津山工

邑久 22－11 児島

津山 25－6 井原

岡山工 8－5 津山商

天城 37－6 朝日

青陵 23－14 和気

倉敷工 15－12 玉野

▽2回戦

総社 22－1 金川

一宮 11－5 吉備

操山 16－4 成羽

芳泉 25－4 東岡山工

西大寺 18－8 古城池

水島工 25－20 倉敷南

津山 16－11 邑久

天城 24－8 岡山工

青陵 22－12 大安寺

総社 13－5 倉敷工

大宮 9－7 操山

倉敷商 12－10 芳泉

▽準々決勝

西大寺 22－12 水島工

天城 20－11 津山

総社 21－14 青陵

倉敷商 18－12 一宮

▽準決勝

天城 27（17－11、10－15）26 西大寺

倉敷商 19（7－5、12－6）11 総社

▽決勝

倉敷商 25（12－7、13－12）19 天城

〈女子〉

▽1回戦

津山 12－2 古城池

一宮 14－5 児島

芳泉 9－7 津山商

朝日 17－13 倉敷中央

▽2回戦

真備 23－6 津山

西大寺 24－5 倉敷南

天城 34－6 備前東

落合 16-12 一宮
操山 16-2 芳泉
倉敷商 21-4 井原
大安寺 26-5 青陵
総社 19-5 朝日

▽準々決勝
真備 12-7 西大寺
天城 19-12 落合
倉敷商 6-6(PTC 1-0) 操山
総社 15-8 大安寺

▽準決勝
天城 15(7-5, 8-8)13 真備
総社 13(7-3, 6-2)5 倉敷商

▽決勝
総社 15(5-3, 10-3)6 天城

◆茨城県中学校新人大会

(11月9、12日)

〈男子〉

▽1回戦
石岡 キケン 土浦一
土浦三 17-9 石岡府中
利根 16-10 出島北
麻生一 16-8 土浦六

▽2回戦
茎崎 17-9 石岡
水海道 21-18 土浦三
古河一 17-15 利根
鬼怒 19-12 土浦六

▽準決勝
茎崎 13(7-3, 6-7)10 水海道
鬼怒 22(9-7, 13-6)13 古河一

▽決勝
鬼怒 17(9-6, 8-9)15 茎崎

〈女子〉

▽1回戦
五霞 11-10 北浦
結城 16-14 石岡
江戸崎 19-7 岩瀬東
岩井南 13-12 土浦三
牛久一 22-5 利根
水海道 13-10 出島
伊奈 25-0 土浦六

▽2回戦
麻生 14-3 五霞
岩井南 21-3 牛久一
江戸崎 12-9 結城
伊奈 10-4 水海道

▽準決勝
麻生 12(7-5, 5-2)7 江戸崎
伊奈 7(5-2, 2-0)2 岩井南

▽決勝
麻生 7(5-2, 2-2)4 伊奈

◆第13回東海クラブ選手権

(11月14日)

〈男子〉

▽予選Aゾーン
セブンスターズ 16-6 名市工ク
岐阜ク 7-6 天竜ク
セブンスターズ 16-6 岐阜ク
名市工ク 9-8 天竜ク
セブンスターズ 17-11 天竜ク

▽予選Bゾーン
名市工ク 15-10 岐阜ク
桜丘会 14-7 鵜ノ森ク
清商ク 16-5 鬼商会
鵜ノ森ク 12-0 鬼商会
桜丘会 14-11 清商ク
鵜ノ森ク 10-6 清商ク
桜丘会 20-7 鬼商会

▽7位決定戦
天竜ク 18-5 鬼商会

▽5位決定戦
清商ク 12-9 岐阜ク

▽3位決定戦
名市工ク 16-10 鵜ノ森ク

▽決勝
セブンスターズ 14-7 桜丘会

〈女子〉

▽決勝リーグ
あゆみク 7-5 名古屋ク
ポストク 7-1 腕満会
あゆみク 6-1 腕満会
名古屋ク 8-7 ポストク
あゆみク 8-5 ポストク
名古屋ク 12-7 腕満会

(順位)①あゆみクラブ(3勝)②名古屋クラブ(2勝1敗)③ポストクラブ(1勝2敗)④腕満会(3敗)

◆茨城県高校新人大会女子の部

(11月18日~20日)

▽1回戦
笠間 16-7 波崎
八郷 11-4 岩井西
石岡二 11-5 潮来
下妻二 5-4 水戸二
土浦二 11-5 結城二
鉾田二 12-3 日立二

▽2回戦
笠間 10-6 友部
竜ケ崎二 11-4 八郷
土浦三 19-17 高萩
竜ケ崎一 19-5 潮来
下妻二 11-9 太田二
麻生 14-2 鉾田二
土浦二 21-8 岩井
水海道二 26-6 鉾田二

▽準々決勝
竜ケ崎二 13-7 土浦二
竜ケ崎一 15-9 土浦三
麻生 15-8 下妻二
水海道二 15-7 土浦二

▽準決勝
竜ケ崎二 11(6-5, 5-5)10 竜ケ崎一
水海道二 15(9-4, 6-5)9 麻生

▽3位決定戦
麻生 7(4-2, 3-3)5 竜ケ崎一

▽決勝
水海道二 19(8-4, 11-5)9 竜ケ崎二

◆第32回青森県高校秋季選手権

(11月20、21日)

〈男子〉

▽1回戦
青森東 33-4 野辺地工
青森 25-10 五所川原
七戸 27-2 弘前南
青森商 21-6 野辺地横浜分
三本木 15-6 鰺ケ沢
青森南 21-9 十和田工

▽2回戦
青森東 17-15 野辺地
七戸 18-12 青森
青森商 22-8 三本木
柏木農 21-18 青森南

▽準決勝
青森東 12(6-4, 6-6)10 七戸
青森商 23(12-8, 11-5)13 柏木農

▽決勝
青森商 18(10-7, 8-6)15 青森東

〈女子〉

▽1回戦
野辺地 19-0 三本木
青森西 7-6 青森商
青森中央 23-4 青森東

▽準決勝
野辺地 11(0-3, 4-0, 4-5, 3-2)10 七戸
青森中央 8(4-3, 4-3)6 青森西

▽3位決定
青森西 7(3-2, 4-1)3 七戸

▽決勝
野辺地 10(3-3, 7-6)9 青森中央

◆第3回山陰選抜大会

▽高校女子決勝
松江市立女子高(島根) 14(10-2, 4-3)5 米子北高(鳥取)

▽高校男子決勝
松江工高（島根）15（8－4、7－3）7 米子東高（鳥取）
▽一般女子決勝
松江ク（島根）23（13－8、10－6）14 アシックス（鳥取）
▽一般男子準決勝
松江ク（島根）27（15－10、12－16）26 境港市ク（鳥取）
江津ク（島根）49（21－5、28－5）10 中部ク（鳥取）
▽一般男子決勝
江津ク 30（16－10、14－11）21 松江ク

◇第9回北信越学生選手権
（11月13、14日）
▽1回戦
金沢大 24（14－8、10－12）20 金沢工業大
福井大 22（7－6、15－7）13 金沢美術工芸大
▽準決勝
金沢大 21（13－12、8－8）20 新潟大
富山大 15（7－6、8－5）11 福井大
▽決勝
金沢大 25（13－8、12－5）13 富山大

◇石川県高校新人大会
（11月18、20、21日）
＜男子＞
▽予選1次リーグ
○Aブロック
小松商 19－8 向陽
小松工 21－11 向陽
小松工 18－12 小松商
○Bブロック
星稜 14－8 泉丘
泉丘 17－7 大聖寺
星稜 19－14 大聖寺
○Cブロック
小松明峰 14－8 松任
小松明峰 17－13 金沢市工
金沢市工 20－15 松任
○Dブロック
錦丘 34－5 金沢商
寺井 12－10 錦丘
寺井 28－9 金沢商
○Eブロック
松陵工 26－7 宝達
小松 30－9 松陵工
小松 38－6 宝達
○Fブロック
県工 26－11 二水
県工 29－14 羽咋
羽咋 19－9 二水
▽2次リーグ
○Gブロック
小松工 17－15 小松
小松 28－16 金沢市工
小松工 33－7 金沢市工
○Hブロック
星稜 25－16 県工
県工 13－12 錦丘
星稜 21－19 錦丘
○Iブロック
小松商 13－11 小松明峰
小松商 29－10 松陵工
小松明峰 24－12 松陵工
○Jブロック
寺井 12－11 泉丘
羽咋 22－13 泉丘
羽咋 28－21 寺井
▽決勝トーナメント1回戦
小松工 23－3 寺井
県工 19－14 小松商
小松 22－11 羽咋
小松明峰 24－20 星稜
▽準決勝
小松工 18（10－6、8－8）14 県工
小松 20（9－5、11－5）10 小松明峰
▽決勝
小松 18（8－6、10－5）11 小松工
＜女子＞
▽予選リーグ
○Kブロック
小松商 18－3 小松明峰
小松商 23－7 短大高
小松明峰 19－14 短大高
○Lブロック
金沢商 12－9 星稜
金沢商 12－1 松任
星稜 12－4 松任
▽決勝リーグ
小松市女 13（6－3、7－3）6 小松商
小松市女 34（18－2、16－1）3 金沢商
小松商 18（5－0、13－2）2 金沢商
（順位）①小松市女②小松商③金沢商

◇群馬県高校新人大会
（11月21、23日）
＜男子＞
▽1回戦
吉井 26－18 下仁田
▽2回戦
富岡 21－14 吉井
前橋 31－7 桐生工
前橋商 31－6 利根農
桐生 12－0 育英
▽準決勝
富岡 25（11－2、14－5）7 前橋
前橋商 28（18－8、20－8）16 桐生
▽決勝
富岡 27（12－6、15－7）13 前橋商
＜女子＞
▽1回戦
高崎市女 11－5 桐生西
前橋市女 13－6 前橋東商
吉井 28－6 佐藤学園
▽2回戦
高崎市女 16－7 前橋商
下仁田 12－3 前橋市女
群女短大附 21－4 桐生女
吉井 36－0 高崎女
▽準決勝
高崎市女 26（13－6、13－0）6 下仁田
吉井 21（9－2、12－7）7 群女短大附
▽決勝
吉井 17（6－5、11－4）9 高崎市女

保険で安心
明るくスポーツ
850万人の保険

スポーツ安全協会傷害保険

保険金額は最高1,200万円
保険料　年額　340円より
賠償責任保険も受付け

1982

みんなではいろう！"スポーツ安全協会傷害保険"

スポーツ団体だけでなく
子ども会，婦人団体，地域のクラブ等の方々も
10名以上のグループで，ご加入になれます

●保険料，保険金額は（お一人につき）

区分		保険料	死亡・後遺障害保険金額	医療保険金額	
				通院	入院
第1種	A	340円	12,000,000円	日額 1,000円	日額 1,500円
	B	400			
	C	680			
第2種	A	9,600	後遺障害の支払いは 3%〜100%	支払限度日数 90日	支払限度日数 180日
	B	3,200			
	C	1,600			

●第1種，第2種ＡＢＣの区分は次のとおりです。

第1種	A	スポーツ少年団，子ども会，こてきバンドなど義務教育終了前の幼少年グループ
	B	コーラスサークル，環境美化友の会などの文化活動，奉仕活動などを行う団体
	C	ママさんバレー，早起き野球などの地域スポーツ団体
第2種	A	山岳会，スキンダイビング，リュージュ，スカイダイビングなど
	B	スキー，ラグビー，サッカー，柔道，ボクシング，空手，馬術，相撲，硬式野球など
	C	ハンドボール，陸上，水泳，軟式野球，バレー，ボート，体操競技，剣道，射撃など

●体協公認等の指導者も10名以上まとまった場合は第１種Ｃで加入できます。また，指導する団体の一員としても加入できます。

●**適用の範囲（担保条件）は**

○加入者の所属する団体の管理下における活動中の事故。
○団体が指定する集合，解散場所と加入者の住所との通常の経路往復中の事故。
○ただし学校管理下（学校安全会の給付対象内）における事故は不担保。

●**保険期間**

毎年４月１日より翌年３月31日まで。ただし，中途加入でも翌年３月31日までです。（申込は３月１日から受付ます）

●**加入申込み，資料の請求，お問合せは……**
スポーツ安全協会各都道府県支部（主として教育委員会保健体育課にあります），東京海上火災の営業店にご照会ください。

（財）スポーツ安全協会
東京都渋谷区神南1-1-1 岸記念体育会館
電話　467－3111（代）　直通460－6263

(財)日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第二一四号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
昭和五七年十一月二十五日 印刷
昭和五七年十二月一日 発行
東京都渋谷区神南一—一—一
電話 代表(467)七〇九七
振替 東京 六—五八三四八番
編集兼発行人 荒川清美
定価三百五拾円
(年間購読料三千三百円)